

# 親の眼



第69回東海四県対抗剣道大会・第29回東海四県対抗女子剣道大会・第54回東海四県居合道大会 三部門優勝

## 目次

卷頭言	実業団だより	16
(一財)愛知県剣道連盟 理事長 東 一良	道場連盟だより	18
範士号拝受にあたって・八段昇段者の紹介	中体連だより	19
1	高体連だより	21
大会結果	愛知県学校剣道連盟だより	22
第58回全日本居合道大会五段の部優勝	東海学生剣道連盟だより	23
2	地区だより	24
第69回東海四県対抗剣道大会	役員	30
3	おめでとう 昇段結果	31
第29回東海四県対抗女子剣道大会	審査料・登録料	36
3	愛知県剣道連盟ホームページ	37
第54回東海四県対抗居合道大会	五地区剣道連盟所在地	37
4	編集後記 スタッフ写真	38
第22回全日本選抜剣道八段優勝大会	令和6年度事業計画	39
6	資料室所蔵史料紹介	
第55回愛知県春季少年剣道大会		
7		
歴史探訪 高橋赳太郎と「直心我流」棒の手		
9		
各部門だより		
居合道だより		10
杖道だより		11
警察だより		12
刑務官だより		14

第48号



一般  
財団法人

愛知県剣道連盟

令和五年度より愛知県剣道連盟理事長に就任することになりました。

平素は当連盟の活動にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。浅学非才の私では理事長としての力不足であります。皆様の力を賜りながら職責を全うすべく全力を尽くす覚悟でございます。何卒会員の皆様の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現在、コロナウイルスは落ち着いて来たものの全く終息したわけではありません。昨年はワクチンの接種が進み、政府や自治体の感染予防策も緩和され、重症化も軽減したことから安心、安全に留意しつつ計画した事業が実施されました。政府も令和五年五月から新型コロナウイルス感染症の感染症法上位置づけを、二類から五類に引き下げるといいます。この感染症と向き合いながら各種ガイドラインを遵守し事業（大会、審査、講習）を進める所存でございます。又厳

しい少子化の中で、子供たちは高学年につれて剣道離れが進み、剣道人口は減少傾向にあります。

又現在において他のスポーツ同様、少子高齢化の影響を強く受けています。愛知県剣道人口の増加と、女子剣道の普及発展に最大限に力を注ぎたいと思えます。現在各地区連盟と会員のご尽力により順調に発展しつつあ

に対して敬意を表すものであります。

新たに高段者指導委員会を発足させていただきました。これは四段～八段までの受審者講習会の中で受審者に剣道を正しく伝承し、剣道の発展を図り理念に基づいた高い水準の剣道を目指してまいりますとともに、より早い昇段をめざすためです。内



### 巻頭言

一般財団法人愛知県剣道連盟

理事長 東 一 良

## 「理念に基づいた 剣道の伝承」

るものと喜んでいる次第です。今後もこれまでと同様に各専門委員と月一回の会議を実施し各地区連盟の意見を聞いて進めて参ります。

女子部の剣道については各地区の交流稽古は参加者も多くなり修練の意欲がうかがえます。現在女子剣士で七段を多くの方が取得されており、努力と精進

容については講師による講話、剣道形、立ち会い、回り稽古等を実施しています。

又、県の合同稽古が毎月第一、第三月曜日に枇杷島スポーツセンターで行われています。この目的は身体の鍛錬を図り、礼節を重んじ、剣道精神を通して人間形成を醸成し会員相互の親睦を図る事を目的にしています。

この合同稽古の前に居合道を行い剣道稽古に出席される人に少しでも居合道を理解してもらうために取り入れました。これまでの先生方の訓えで、竹刀は日本刀であるとの観念を基とし木刀を使用して刀法の原理、理合、作法の規範を理解をして頂くためであります。

杖道は剣道や居合道に比べて愛好者が少なく、稽古が盛んに行われている地域は全国的に見ても高段者が多いところに限定されているのも、やむをえないところでもあります。当然それ以外の地域では現在でも普及が遅れて有段者の数も少ない為なかなか大会が少ないのが現実です。剣道を修業する人であっても剣の理法をより掘り下げて体得して行く為に杖道にも興味を持って頂きたいと思えます。

連盟は数多くの職業や年齢性別の違った会員によって結成されております。お互いが理解しあい思いやりを持って楽しんで剣道ができる連盟になるよう望んでいます。

## 範士号拝受にあたって



範士  
東 一良

この度、全日本剣道連盟から令和五年五月六日に京都の審査会に於いてはからずも剣道範士の称号を拝受いたしました。これも諸先生方のご指導、ご支援の賜と心から感謝申し上げます。私には重すぎる範士の責任ですが、残る余生を研さんに努め剣道の発展普及に努力してまいります。今後ともご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

### 八段昇段者の紹介

剣道



高山 潤一  
(尾張)

令和五年五月一日に八段審査に合格させていただきました。これも、ひとえに愛知県剣道連盟の会員の皆様のご指

導ご鞭撻のおかげと感謝しております。

平成十五年十一月に四十九歳で八段受審資格ができてから、二〇二三年五月一日の京都の審査まで約二十年間、年に二回受け続けました。

最初の頃は、ひよっとしたら受かるかも知れないという安易な気持ちで受けていましたが、八段審査の厳しさを実感するにつれ、年二回自らの剣道を見つめなおす機会であると考えようになりました。もし、途中で止めていたら自分の技量は体力の衰えとともに落ちていたと思います。

ここ数年は、コロナ禍もあり、稽古の回数も減っていましたが、たまたまご縁があつて、令和三年四月より名古屋経済大学の剣道部のコーチに就任して、大河内鉄彦監督と二人で、学生の指導に当たることができたことも、自らの技量の向上に役立ち本当に幸運でした。

いままでなんとか一次審査には合格をいただいていたのですが、二次の壁は厚くその都度跳ね返されていました。今回幸運にも合格させていただきました。今相手にも恵まれたこともあり、前回までと比べて審査そのものを楽しめたことが大きかったと思います。今回心の中で常に念じていたのは、とにかく悔いの残らない立ち合いをしよう、いままでの成果をすべて出し切

ろうと一次も二次も念じて立ち会いしました。

すると、今までは立ち合いの時間が長く感じたのですが、今回は時間が気になりませんでした。いつの間にか終わっていて自分が何をどうしたかあまり記憶がありません。それでも終わった後は、やり切ったという実感はありました。

今回幸運にも八段に昇段させていただきましたが、これからは柳生石舟斎宗厳の遺訓とされる「一文は無文の師、他流勝つべきにあらず、昨日の我に今日は勝つべし」をモットーに精進を続ける所存です。今後も皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

剣道



高旗 豊樹  
(西三河)

令和五年五月一日、京都での審査会において八段に昇段させていただきました。これまで、何度も挑戦し失敗の連続でしたが、今回は自分でも驚くほど落ち着いた立ち合いをすることができ、相手がよく見え、自然に技を出す

ことが出来たと思います。もしかしたら、という手応えと期待の中、合格発表を見た瞬間は、嬉しさと共にこれは大変なことだという責任の重さを感じていました。

二年前に退職してからは、稽古の量を増やすことができ、県剣連主催の八段受審者講習会などで指導していただいたことを、繰り返し稽古の中で実践できたことが、今回の合格につながったのではないかと思います。無駄打ちをしない、審査会で打つのは、四、五本にして、打つべき時に打つということを意識しました。普段の稽古の中では、相手の構えがくずれた所、こちらから攻めて相手が構えをくずしたところを打つ、ということを心掛けました。

打つときは、思いきり打ち切ること、『抜ける』『ぶつかり跳ね返ることでの間』が残心をとりやすくすること、も実感できました。

稽古の量だけでなく、質の向上があつてこそ今回の結果と思います。昨年古希を迎えた今が、剣道人生の中で一番稽古ができる環境にあります。健康に気を付けながら、いろいろなところで行われている稽古会への参加や少年剣道の指導を継続することで、少しでもお役に立つことができたいと思います。

これからも目指す剣道を追求しなが

ら、自身の気持ちも清々しく、また相手の方にもそれを感じて頂くことができるような稽古を続けていきたいと思えます。

終わりに、ご指導頂いた愛知県剣道連盟の先生方、稽古の相手をしていただいた皆さん、いつも気にかけていただき、励ましの言葉を掛けていただいた方々に心から感謝申し上げます。

## 居合道



松下 明房  
(尾張)

令和五年十二月九日、東京江戸川スポーツセンター居合道八段審査会に於いて合格させて頂きました。愛知県の先生をはじめ地方での講習会、大会の折には他県の先生方にも多くのご指導をいただき、共に稽古に励みアドバイスもいただいた剣友、応援してくれた一宮女子剣、三菱居合同好会、智養館家族のあと押しのお陰と心から感謝しております。

私は令和二年二月に脳梗塞を発症し入院絶対安静で点滴しながらベッドの上で天井を眺めながら、私の剣道、居合道の人生は終わった、と一時落ち込み、

幸いな事に一週間後にはリハビリが始まり後遺症も軽かった為に九日間で退院できました。短い期間でしたが、体力筋力気力は思いのほか落ち込んでいませんでした。

智養館にてリハビリのつもりで身体を動かしながら刀を振ったりしているうちに少しずつ体力筋力も前程ではないが快復し、前向きな気持ちになり、一宮女子剣、三菱居合同好会、智養館、と週四回の稽古が出来るようになりました。昔、習ったことを思い出す。誰にも出来ない事を誰も出来ない程稽古する。重い刀は軽く軽刀を重く、刀の重さを利用して刀を振る手の内を覚える。

新陰流には習い、工夫、稽古という「三磨の位」の教えがあります。素直な気持ちで初心に戻り稽古するように心掛け、仮想の敵に対し自分はどうな状態をつくるかを工夫した目付、口元、腰、腹、足、刀が気剣体一致が繋がるように稽古をし、続けるうち身体が思うように動ける時があり、久々と稽古しかなと思います。

審査は無我夢中で演武できた様な気がしました。今までご指導いただいた先生、剣友の皆様応援してくださった方々家族に重ねて感謝申し上げます。今後正しい居合を目指して稽古に精進しますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ● 第五十八回 全日本居合道大会五段の部優勝 ●



西川 貴都  
(尾張)

令和五年十月二十一日、東京武道館にて開催された第五十八回全日本居合道大会に愛知県の五段代表として出場させて頂いたいただき、優勝することができました。

居合道は小学校五年生から祖父の影響で始め、東海大学に進学後は居合道部で四年間活動し、現在は就職を機に愛知に戻り稽古をしています。

私にとって全日本は三回目の出場となりましたが、一年目はベスト8、二年目は初戦敗退と目標としていた優勝には遠く及ばず、特に昨年は本当に悔しい思いをしました。

これは、毎回反省することなのですが、「稽古は一所懸命に取り組んでいなか、もっと稽古ができたのではないかと」自問自答しました。

強化稽古では力みを取り除き、自然な動き、下半身が浮いていないか等を重点的に、そして、「自分の間」を大切にすることを意識しました。大会当日に監督から「敵は対戦相手

では無い、落ち着いて自分の居合を抜けば大丈夫」とお声掛けいただき、対戦相手ではなく仮想敵を意識した居合を心掛けることができました。

そのおかげで、自分の今までやってきたことを見ていただこうと、一戦一戦を落ち着いて技を抜くことができ、今回の結果に繋がったように思います。閉会式の後、審判の先生から「間と手の内」を褒めていただき、稽古で意識していた所を評価していただけたことが本当に嬉しかったです。

後日、これまで私がお世話になった愛知県内外の先生、先輩方から祝福をいただき本当に皆様に支えられて今があることを実感しました。

これからは、今以上に理合を考えながら、少しでも良い居合が抜けるように精進致します。

そして、今まで先生方に教えていただいたこと、学ばせていただいたことを少しでも恩返しできればと思っております。

最後に居合道と出会うきっかけくれた祖父はもちろん、監督や一緒に稽古していただいた代表チームの先生をはじめとする愛知県剣道連盟の皆様には本当に感謝しています。

本当にありがとうございました。

## 第六十九回 東海四県対抗剣道大会及び 第二十九回 東海四県対抗女子剣道大会に出場して



大将  
近本 巧

本年三月三日に東海四県対抗大会が本県名古屋千種スポーツセンターで開催され、大会会長は大嶽将文会長が務められた。

本県開催もあり、優勝が絶対条件で招集された選手を紹介します。

森島直子(愛知製鋼) 大将をはじめ、副将 今道恵子(パナソニック)、中堅 迫美樹(愛知県警)、次鋒 小川 萌々香(愛知県警)、先鋒 井手野愛子(パナソニック)、男子 先鋒 安藤千真(大同特殊鋼)、次鋒 芽野颯人(大同特殊鋼)、十将 久田松雄一郎(愛知県警)、九将 吉武剛(愛知県警)、八将 海野祐介(名古屋刑務所)、七将 大川真央(JR東海)、六将 今泉勇人(JR東海)、五将 近藤大希(JR東海)、四将 佐藤祐広(教員)、三将 溝口夏樹(名古屋矯正管区)、副将 上山敏広(教員)、大将 近本巧(愛知県警) 筆者という選手で戦った。

まず、一試合目の岐阜戦は初戦とい



昼休憩をはさみ最後は三重戦、他県共に最後の試合で勝敗が分かれる大事な試合展開となった。

うこともあってか、全体的に硬さがあり三対三の本数一本負けで大将戦となった。勝ちが絶対条件であったが何とか勝利し勝ちを収めホッとした。男女ともに勝利することができ幸先の良い結果となった。

次は二試合目の静岡戦、ここで勝ちを収めると最後の試合は非常に楽な展開になると思われたが、五対二という惨敗であったが、女子は快勝で勝利を収めた。



この時点で、岐阜県一敗一分、三重県一勝一分、静岡県一勝一敗、当県一勝一敗であった。

当県は勝利が絶対条件であったが、静岡県が岐阜県に勝利すれば勝者数で静岡県の優勝が確実となるため、当県のできることは三重県に大差で勝利すれば自力で優勝することができた。

しかし、結果はまたもや二対二の本



数一本負けて大将戦となり勝ったとしても自力での優勝はこの時点ではなくなってしまう。大将戦は勝ちを収め勝利することができたが、岐阜県対静岡県の勝敗で岐阜県が勝利を収めると同時に当県の優勝は確実となったが、後味の悪い結果となった。

女子は三戦全勝で快勝し優勝を飾った。男子も何とか優勝することができ

たが、今回監督の北村真一先生をはじめ連盟の先生方はハラハラした試合ばかりで気苦労したのではないかと思います。

今回も私自身、団体戦の難しさを痛感し、今後の強化に役立てていく必要があると感じた。

おわりに、忙しい合間を縫って強化練習に参加してくれた選手をはじめ、連盟の先生方に対し感謝申し上げ、それぞれが更なる高みを目指してこれからも精進してまいりますので、より一層のご指導よろしく申し上げます。



大将  
森島 直子

令和六年三月三日、愛知県名古屋千種スポーツセンターにて東海四県対抗剣道大会、東海四県対抗女子剣道大会が行われました。地元愛知県開催で男女とも優勝することができ、また女子においては三戦全勝という好成績を残すことができ大変嬉しく思います。

【岐阜県戦】

先鋒次鋒引き分け、中堅一本勝ち、副将引き分け、大将一本勝ちの2-10で勝利。全員が試合時間を使い切る慎重な試合運び。無理をせず確実に繋いでいく団体戦らしい試合ができたと思えます。

【静岡県戦】

先鋒次鋒二本勝ち、中堅引き分け、副将二本勝ち、大将引き分けの3-10で勝利。硬さもとれ思い切りのよい試合展開でチームに勢いがつきました。

【三重県戦】

二勝同士の直接対決最終戦。「優勝するよ!」と円陣を組み気持ちをひとつにして挑みました。先鋒一本負け、次鋒二本勝ち、中堅一本勝ち、副将引き分け、大将一本勝ちの3-1で見事優勝!

女子結果

- 優勝 愛知県 (三勝〇敗)
- 二位 三重県 (一勝一敗一分) 本数差
- 三位 岐阜県 (一勝一敗一分)
- 四位 静岡県 (〇勝三敗)

北村監督からは毎回試合の流れや勝敗数をみながら的確なアドバイスがいただけました。次の試合を待っている選手にとって監督からのお声かけはとても心強いものです。強化委員長というお立場でもあるため選手との信頼関係があつてこそその結果だったのではないかと思います。

今回このメンバーでチームを組むのは初めてでありましたが、日頃から厳しい強化訓練で切磋琢磨しあっている仲間同士ということもあり雰囲気もよくチームワークは抜群でした。そして今回の選手のみならず、強化選手として訓練に参加しているメンバーは全員が素晴らしい逸材であり成長が楽しみな選手ばかりです。今後も強化委員長はじめ強化委員の先生方と共に、この活気あふれるチーム愛知が各種大会でますますの好成績を取られるよう努力してまいります。今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

第五十四回 東海四県対抗居合道大会



監督  
木ノ本みゆき

令和六年三月三日、名古屋市千種スポーツセンターにおいて「第五十四回東海四県対抗居合道大会」が開催されました。

昨年十月二十二日に選考会を経て愛

知県代表となった選手は若いエネルギーのみなぎる中に昨年の優勝をプレッシャーとも感じている様子が窺えました。初めて県代表となる選手五人の緊張は勿論、お互いに面識もない選手もいて、まずはチームを作る事から強化は始まりました。

稽古では教えてもらうのを待つのではなく、自分で研鑽して見つけ出して行くことを自覚してもらおうと、そこから選手同士お互いに気付き合う事が生



表彰式



集合写真 at アリーナ

まれました。自分の良い所は更に伸ばし確実にして、癖は基本から叩き直し形だけの居合ではなく敵対動作であることを意識して身体運用の修練を重ねて参りました。その中で、若者チームは信頼感と思いやりを作り出しチームワークが出来上がっていきました。そこには応援して下さる方からの差し入れて「モグモグタイム」を持ってた事が助けとなり感謝の念に堪えません。

大会当日は、強化で守ってきた事を確認、大切にして自分と敵との戦いをする事だけを意識するように声掛けしました。選手は緊張を笑顔に変えてお互いの演武を自分のものとして見守っていました。



高橋選手(男性) 対岐阜戦判定

結果は、初陣が落ち着いて正確に自分の演武が出来たこと、先輩は更に気迫あふれる演武が出来たこと、皆が良



末松選手 対岐阜戦 前



高橋(女性) 選手添え手突き血流し



西川選手 対静岡戦 上段の構え



富田選手 対岐阜戦 前

い「間」を持たたことで連覇を勝ち取ることが出来ました。

本大会を契機に新しいチームが誕生し、初めての団体戦を経験した中で「礼に始まり礼に終わる」という教えの大切さも改めて学んだ事と思います。

選手の皆さんには今回の結果に満足することなく、この経験を今後活かして更に精進されて確実なる実力を求



小崎選手 対岐阜戦 前



市川選手 対岐阜戦 前

めて欲しいと思います。

最後に愛知県剣道連盟会長はじめ理事長、多くの先生方の居合道に対するご理解とご支援をいただき本大会に向けてご指導を賜りましたこと、皆様からいただいた応援に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

# 第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会



常任理事  
平井 道典

鳥語花香の令和六年四月二十一日、豊臣秀吉ゆかりの地である中村公園内の中村スポーツセンターにおいて、全日本剣道連盟主催の年度初めの大会で剣道界最高峰大会でもある全日本選抜剣道八段優勝大会が華々しく開催された。

静まりかえった試合会場、亀井主審の試合開始の宣告と同時に決勝戦が始まった。竹刀の触れ合う音だけが聞こえ、固唾をのむ観衆が見守る中、岡山県の竹内選手が面に出る未発の機をとらえ、北海道の栄花選手の電光石火のぬき胴が決まり、その後、両者激しい攻防が続くも時間終了の合図が鳴り、栄花選手の連覇と二回目の優勝が決まった。

本大会に出場している選手は、まず全国約八〇〇名の八段受有者から受有後五年を経た六十五才以下に該当する二〇〇余名が抽出され、更に選考委員会において厳選された心技ともに円熟

した三十二名である。

試合は、勝負を争うトーナメント方式の大会ではあるが、選手には勝つこと以上に高い水準の剣技による格調ある試合が望まれている。

本県からは、昨年に続いて北村選手と初出場の倉成選手の二名の選手が選ばれた。北村選手は、一回戦、京都の高橋選手との対戦となり、試合時間内には北村選手の上段からの片手小手や両手小手の惜しい技があったが有効打突とならず、延長戦で小手を取られて

惜敗した。

倉成選手は、一回戦、本大会昨年準優勝の大阪の愛甲選手と対戦となり、試合時間内も惜しい面があるなど有利に試合を進め、延長戦の開始直後に面にみせての小手が決まり勝利した。二回戦は、本大会で準優勝した岡山の竹内選手との対戦となり、試合開始直後、得意のぬき面が決まり快勝すると思われたが、面を取り返され延長戦で面を取られ惜敗した。

北村選手及び倉成選手ともに愛知代表選手として素晴らしい試合を繰り広げて地元の観衆を盛り上げてくれた。

本大会の開催に当たっては、東理事長の陣頭指揮の下、伊藤事務局長等のご努力による準備と当日の試合運営は万全なものであって、華々しく幕を閉じた。



終わりに、来年度の本大会に愛知県から選ばれる選手の捲土重来と、全選手が勝負にこだわることない円熟した捨て身の技を披露してくれる試合を観れる本大会が今から楽しみである。



- (試合結果)
- 優勝 栄花 直輝 (北海道)
  - 二位 竹内 司 (岡山県)
  - 三位 石田 洋二 (大阪府)
  - 三位 鍋山 隆弘 (茨城県)





教士  
北村 真一

第二十二回全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して、まず応援いただいた皆様には、残念な結果となりましたが、大変感謝申し上げます。

今年の大会で三回目の出場となり、前回まで共に二回戦敗退と悔しい結果に終わっていることで、今年こそは、上位を目指し挑みましたが、この大会に出場される選手は、歴戦の選手ばかりでそう簡単ではありませんでした。

京都の高橋選手は、全日本選手権でも活躍された選手であり、打ち崩すことができないまま、延長戦に突入し自分の稽古不足を痛感しました。

日頃の精進、が大切であり最後は稽古をしっかり和積むことができた選手が勝利を手にとりました。

自分を振り返ると、試合に臨む気持ち、稽古環境を自ら作る努力、稽古内容の工夫と足りない事ばかりです。年齢や段位に関係なく、試合に出場し勝つためには、今の環境の中で最善を尽くすことが大切であると感じています。

愛知県剣道連盟 強化委員長として、この大会に出場した感想と反省を

今後の強化訓練や大会に出場する選手の皆さんに伝えていきたいと思っております。ありがとうございます。



教士  
倉成 健治

### 第二十二回全日本選抜 剣道八段優勝大会出場のご感想

私が愛知県警剣道特練員だった頃、当時「明治村大会」として開催していた時に係員として大会にかかわらせていただきました。

その後、全日本選抜剣道八段優勝大会として継続されてからも係員として大会にかかわらせていただき、その時代に剣道界で活躍されていた著名な先生方の名勝負を間近で拝見させていただき感動を覚えたことが今でも鮮明に思い出されます。

その伝統ある地元開催の大会に出場させていただけただけに感謝申し上げます。

第二十二回大会での最年長者の年齢は六十三歳ですが、私は六十一歳と決して若くはありませんので今の持てる力を全て出し切って評価していただければと思います。

一回戦の相手が大阪の愛甲先生と決

まった時は運命的なものを感じました。私の警察のデビュー戦の相手が愛甲先生でした。

今大会では試合内容は常に攻められつつ打たれても仕方がない状況でしたが、運よく延長で小手を取り勝つことができました。

二回戦の竹内先生は、過去のこの大会で第三位を二回取られている実力のある先生です。

竹内先生との対戦は初めてでした。運よく試合開始早々一本取ることができましたが、すぐに一本取り返され

延長で取られて負けてしまいました。まさに経験の違いを思い知らされる試合でした。

今大会を経験させていただき大変勉強になりました。

忙しい中、応援に駆けつけていただいた社長はじめ幹部の方々、関係者の皆様方並びに親族の声援に背中を押されて実力以上の力が発揮できたことに感謝申し上げます。

今大会の経験を活かして更なる高みを極められるように精進していきたいと思います。

## 第五十五回 愛知県春季少年剣道大会



愛心館  
毛利 隆志

小学六年生にとって愛知県での小学剣道最後の大会。

昨年は優勝という形で終えることが出来、今年もと言う気持ちもありましたが、思い返せば優勝という目標はあったものの昨年同様私も、子供達も一戦一戦全力で挑んでいこうという気持ちであったかと思えます。

愛知県内、地区予選を勝ち抜いてこられた道場の集結。

一回戦から気持ちを強く持って挑まないといけない。優勝という気持ちを持って県大会へ挑んでくるのは皆一緒です。

一回戦、二回戦、三回戦、四回戦と先鋒・次鋒の五年生がカパーし合い中堅・副将・大将の六年生がまた前二人のカパーし準決勝へ。

準決勝では先鋒・次鋒が敗退からの後ろ三人へ。他の試合でも何度も対戦しており手の内はお互い知っている者同士。勿論、対戦の中でも勝ちも負けもあり五分五分の勝負です。

中堅が何とか取返し、副将も勢いを

継ぎ勝利。大将はチーム勝利へ意地をみせてくれ引き分けのチーム本教勝ち。

ここでの勝利も嬉しかったと思いますが喜びも堪え次の決勝へ。

決勝の相手道場様も過去を遡るとなかなか勝たせてもらえなく、他大会でも惨敗しており子供達も勝利への気持ちは強かったと思います。

勿論、相手チームも同じ気持ちだと思います。

気持ちと気持ちのぶつかり合いの決勝戦。

先鋒、上手さで一枚上をいかれ二本負け。次鋒、今まで一度も勝ったことのない相手でしたが一本先取。その後



第55回愛知県春季少年剣道大会  
小学生の部優勝 愛心館

も守る気持ちを出さず一本勝ち。中堅戦、他大会では勝てなかった相手に意地をみせ一本勝ち。

副将戦、過去の対戦からお互い勝ち有り負け有りの相手。三人が繋いでくれた結果を守り引き分け。

白熱した決勝戦、小学生最後でありこのチームでの最後の試合となる大将戦。

お互い勝つ！負けない！の気持ちが変わる試合。

気持ちのぶつかり合いで勝負は付かず引き分け。結果本教差で勝利することが出来ました。

優勝という結果を頂きましたが目標の道場様と決勝戦で良い試合が経験出



第55回愛知県春季少年剣道大会  
中学女子の部優勝 西尾中

来たこと、今日の一日は子供たちの後の力、糧になっていく日になったかと思えます。

大会を終えて、選手達は本当に頑張ったと思います。

悔しい思いも沢山し挫けずまた頑張る、結果今大会良い成績が収められましたがこの頑張ってきた強い気持ちは今後の成長の力にはなると思います。

昨今、子供達の運動離れ、剣道人口減少化が懸念されますが子供達が強い気持ちを養ってもらえるよう、また、剣道の良さを一人でも多くの方々に伝えていけるよう精進して参りたいと思います。今後ともご指導の程、宜しくお願致します。



第55回愛知県春季少年剣道大会  
中学男子の部優勝 八王子中



中学生開会式



小学生開会式

## 歴史探訪 9

たかはしきゅうたろう  
高橋越太郎と

じきしんがりゅう  
「直心我流」棒の手

「棒の手」は、愛知県を代表する農民武芸、また民俗芸能であり、その分布は、東は設楽町津田、西は弥富市境南は南知多町内海、北は江南市安良に至っています。

その中で尾張旭市は旭前駅の正面に立派なモニュメントが建てられるほど棒の手が盛んな地域で、現在も「無二流」「検藤流」「直心我流」「東軍流」「直師夢想東軍流」の五流派が伝統を守っています。

市内印場地区にある渋川神社は延喜式神名帳にその名が載る由緒ある神社ですが、その境内の一角に直心我流開祖、八木弥郎を讃える碑が建立されています。

しかし、銘文には「棒の手」や「棒」という文字は一切無く、代わって「剣道」が六回に渡って刻まれています。さらに、末文には、「大日本武徳会剣道範士 高橋越太郎先生篆額」と記されています。

これは、つまり直心我流の棒の手は、開祖が長年にわたる厳しい剣道修行の末



大日本武徳会剣道範士  
高橋越太郎

に剣道の奥義を極め、興したもので、奉納神事としてだけでなく、武術的な面においても優れていることを強調しているのではないかと考えられます。そして、それにお墨付きを与える意味合いで高橋越太郎が篆額を刻んだものと思われまます。

高橋越太郎は安政六年（一八五九年）姫路藩剣術指南役の家に生まれ、幼少より修行に打ち込み、十八歳の時、父より無外流と津田三伝流の免許を与えられました。その後、日本各地での武者修行を経て警視庁に奉職し、同時期に警視庁撃剣世話係を務めた川崎善三

郎、高野佐三郎と共に「三郎三傑」と名を馳せ、明治中期から昭和初期にかけて活躍しました。

この碑文の日付には「大正十年辛酉十二月吉日」とありますが、この前後には高橋越太郎にとって大きな出来事がありました。

大正八年に大日本武徳会から剣道範士号を授与され、大正十三年は宮内省皇宮警察部主催の済寧館台覧試合において北辰二刀流の門奈正と対戦しました。

この試合では互いに二度も技を出せず引き分けとなり、「技を超えた達人同士の試合」と評されたといえます。

このように剣道家としてまさに円熟期を迎えていた高橋越太郎から篆額を授かったということは、当時の直心我流の人々にとって大いに誇らしかったことだろうと想像できます。

この石碑について直心我流保存会を訪



直心流碑（渋川神社）

ね、経緯について聞いてみましたが、当時のことを伝え聞いている者はいないとのことでした。

しかし、直心我流の棒の手は動きがスピーディーで、かけ声も「エイ」「ヤー」など息で発し、剣術的要素が多いことや江戸時代から伝わる秘伝の巻物が大切に保管されていることなど興味深いお話を聞くことができました。

実際に演武を拝見することはできませんでしたが、前述の渋川神社の秋の大祭では境内において、「直心我流」「東軍流」「直師夢想東軍流」の棒の手が奉納されるということです。

ぜひ、実際にご覧になつてはいかがでしょうか。

〔渋川神社の秋の例大祭日時〕

毎年十月の第二日曜日

※令和六年は十月十三日

〔渋川神社へのアクセス〕

尾張旭市印場元町5-3-1

名鉄瀬戸線「印場駅」から東へ徒歩8分

（文責 広報委員 安田徹夫）



直心流碑 篆額（てんがく）



旭前駅モニュメント



直心我流棒の手

## 居合道だより

令和五年度の

「居合道の活動」について

居合道委員  
佐藤 邦男

愛知県剣道連盟役員の方々には日頃より居合道にご支援を賜り感を謝申し上げます。コロナ感染の重篤者も減少傾向にあり感染症が二類から五類に移行し、各規制も解除され明るい兆しが見えてきました。感染対策には万全の対策を講じ大会や講習会等を開催しております。

大会・講習会において参加者はコロナ以前に比べると随分と少なくなり、以前のレベルまで回復するにはまだまだ時間を要すると思われませんが、活気は戻りつつあります。

その様な中、令和五年十月に東京で開催された「第五十八回 全日本居合道大会」において五段の部で西川貴都選手が見事優勝なされ、愛知県チーム（五段・六段・七段）としても都道府県順位で総合四位の成績を挙げ、前年の総合五位を上回ることができました。

た。愛知県の代表チームは大会最年少のチームでありながらも立派な戦いぶりを発揮していました。毎年レベルアップしている姿は皆の喜びであり励みにもなっております。

愛知県剣道連盟居合道部は五地区（名古屋、東三河、西三河、尾張、尾南）を中心に活動しています。以下ではそのなかの尾南地区の居合道部の活動状況について紹介させていただきます。尾南地区には居合で活動している道場は九か所があり、六十五名程の会員が所属し修練しています（常滑地区三十一名、半田地区二十三名、大府阿久比地区十一名）。剣道と居合道の両方で修練に励んでいる素晴らしい方も七名程いらっしゃいます。小学生から八十歳代の皆が体の状態に応じた無理をしない修練を心がけています。

尾南地区剣道連盟のホームページでは居合道のニュースやお知らせ写真などが掲載されており、それぞれの道場でもSNSで稽古風景や大会の様子などを紹介しています。

令和五年度は大会・講習会を以前に近い状態で開催することができました。

六月には「第三十五回 尾南地区居合道大会」と講習会を五十名程の参加者で開催することができ、十月には「第七十七回 半田市居合道大会」も六十四名程の参加者で開催することができました。コロナ騒動後の大会運営

には苦勞しましたが皆様の協力のお陰によって無事に終えることができ、感謝しております。

居合道は大会競技の勝ち負けが全てではありません、過程が大事だと思います。試合の勝ち負けは結果であり、自分自身の上達は成果であります。成果と結果を区別すれば楽になり、進歩向上への喜びが出てくると考えます。昇段昇級を目標に稽古に励む者が多い中で、指導方針は良いところは確実に癖は意識させることで基礎から直し、日々の継続的な鍛錬と研鑽とを目指しています。

最後に愛知県剣道連盟の関係者の皆様の居合道に対するご理解とご支援に心から感謝申し上げます。



## 杖道だより

杖道委員長  
中西 幸男

## 一 始めに

今年が良い年になりますようにと願って迎えた新年でしたが、能登半島地震が発生して大変な年の幕開けとなってしまいました。被災地の早急な復興を願うばかりです。

さて、私は昨年六月に杖道委員長に就任しました。大役が務まるかと今でも心配です。杖道が少しでも発展するように精一杯頑張ります。

私が杖道を知ったのは、二十五年ほど前に子供たちを通わせた剣道教室で稽古後に杖道と居合道をしていたからでした。「面白そうだな。気軽にできそうだな。」と興味が湧いて始めました。居合道も一緒に始めましたが、今は杖道だけとなりました。

## 二 昨年の主な活動

当県の一級から五段までの審査は、令和五年二月に天白スポーツセンターで行われました。参加人員は、一



級受審者が一昨年の十三名から七名と約半数となり、五段までの全体でも三十八名から三十四名となりました。結果は、五段受審者の二名を除き多くの方が合格されました。

六段から八段の中央審査が三月に江戸川区スポーツセンターで、八段審査が五月に京都市体育館で、そして八月に六・七段審査が兵庫県立武道館で行われました。残念ながら合格者はありませんでした。

中央講習会は三月と八月にそれぞれの審査会場で審査後の土、日曜日の二日間行われています。当県からも多数の方が参加されました。

全日本杖道大会は十月に横浜武道館で行われました。当県の参加は、二段

一組、五段二組そして六段一組でした。入賞こそ逃しましたが善戦しました。定例の毎月末の土曜日に実施される剣道合同稽古は、ひと頃と比べると全体的に参加人数が少ない感はありませんが熱心に稽古できたと思います。簡単ではありますが、以上が昨年の主な杖道部における活動及び私の感想です。

## 四 杖道に対する理念について

杖道は、形武道です。真剣で斬り合ったり、杖で叩いたり突いたりすることもありません。形武道の杖道に何を見出すかは稽古する本人の姿勢にあります。私は形武道であるが故に『真善美』が必要であり、気剣（杖）体の一致を目指した稽古が必要だと思っています。間口は広いけれどとても奥深い杖道だと思います。このことは杖道に限ったものではなく、他の武道一般に言えるものですが極めるのは至極難しいものと思います。

## 五 今後の取組み等

最重要な目標は、杖道人口を増やすことです。そして伝統を絶やさないことです。先人が築き上げ、訓えを伝えてきた杖道の魅力を多くの人に知っていただき、広める必要があります。

杖道は、比較的気軽にできる武道です。筋力や瞬発力はそれほど必要がありませんし、太刀（木刀）と杖があれば

ば老若男女を問わずどこでもできる武道です。

少子高齢化で新規加入が思うように増加できない状況ですが、機会を捉えて杖道の魅力を知らしめて杖道人口の増加を図りたいと思います。

## 六 終わりに

杖道は、全日本剣道連盟の傘下にあります。活動は、組織人口が多い剣道や居合道の方々にご支援をいただいているのが現状です。三道を實踐されている方も多く見えますが、まずは剣道や居合道をされている方々が杖道に興味を持っていただき参加などしていただければ幸いです。



# 警察だより



愛知県警察  
阪野 理成

## 警察剣道の取り組み

警察では、剣道が持つ技術としての有効性や心身の鍛錬の場としてのその重要性に鑑み、警察官の気力と体力の錬成を目的として、剣道を職場で推進すべき術科訓練の一つとして積極的に取り入れ、日頃から警察署の道場などにおいてその振興を図っています。

警察官に剣道を訓練させることは端的に言えば強い警察官を育成するためであり、剣道の技術だけでなく、剣道の中にある武士道の精神を涵養することにあります。戦後、全日本剣道連盟はその武士道の中に宿る「智・仁・勇」を剣道の精神として普及発展させてきました。「智」は善悪を弁別する心や知識、教養といったものであり、「仁」は愛する心や優しさ、眞の礼による謙譲の心であり、「勇」は義務や正義を果たすための根幹となる強靱な心であります。また、剣道を学ぶことによつて、恥ずかしいと思う「廉恥の心」、人を思いやる「惻隱の情」といった日本人特有の精神を養うことができ、正に

剣道は日本文化そのものであり、日本国を守る警察官にとって剣道を学ぶことは大変意義のあるものであります。警察は各都道府県警察学校等で教養課程の必須科目として剣道の訓練を行い、全国の警察署、機動隊等には必ず道場があり、警察官はいつでも剣道の訓練を行える環境にあります。有事の際に国民のために役立つことが警察官の使命であり、「継続は力なり」の格言どおり、日々道場で汗を流し警察官として必要な身体と心の鍛錬をしています。

## 第六十五回愛知県警察剣道大会

令和五年九月二十二日（金）愛知県武道館で、愛知県剣道連盟会長、理事長、各地区理事長、愛知県警察名誉師範を来賓に招いて盛大に開催されました。各所属の代表選手は署員数で分けられたA、B、C組と本部執行隊、女性警察官個人戦の部で上位入賞を目指し熱戦を繰り広げました。

大会結果は以下のとおりです。

### A組

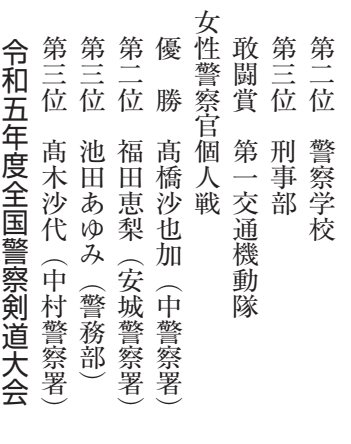
- 優 勝 豊橋警察署
- 第二位 中警察署
- 第三位 愛知警察署
- 敢闘賞 南警察署

### B組

- 優 勝 江南警察署
- 第二位 小牧警察署
- 第三位 西枇杷島警察署
- 敢闘賞 天白警察署

### C組

- 優 勝 蒲郡警察署
- 第二位 足助警察署
- 第三位 熱田警察署
- 敢闘賞 中部空港警察署



- 優 勝 蒲郡警察署
- 第二位 足助警察署
- 第三位 熱田警察署
- 敢闘賞 中部空港警察署
- 本部執行隊の部
- 優 勝 機動隊

令和五年十月二十四日（火）令和五年度全国警察剣道大会が日本武道館で開催されました。  
男子第一部（七人制）、第二部（六人制）、第三部（五人制）、女子の部（三人制）の団体戦が各都道府県警察の代

- 第二位 警察学校
- 第三位 刑事部
- 敢闘賞 第一交通機動隊
- 女性警察官個人戦
- 優 勝 高橋沙也加（中警察署）
- 第二位 福田恵梨（安城警察署）
- 第三位 池田あゆみ（警務部）
- 第三位 高木沙代（中村警察署）



表選手により熾烈な戦いが繰り広げられました。愛知県警察は、男子第一部女子の部に出場し、男子第一部は予選リーグで宮崎県警察、警視庁に惜敗し予選リーグ敗退となりましたが、女子の部は準決勝まで進出し、第四位の成績を収めることができました。

結果は以下のとおりです。

第一部

優勝 警視庁  
 第二位 大阪府警察  
 第三位 神奈川県警察  
 第四位 北海道警察

第二部

優勝 和歌山県警察  
 第二位 兵庫県警察  
 第三位 香川県警察



第四位 茨城県警察

第三部

優勝 埼玉県警察  
 第二位 新潟県警察  
 第三位 佐賀県警察  
 第四位 鳥取県警察

女子の部

優勝 福岡県警察  
 二位 大阪府警察  
 三位 神奈川県警察  
 四位 愛知県警察

期待の新人



柴田 耕作  
(しばた こうさく)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛知県豊橋市
- ・出身道場 豊橋南部少年剣友会
- ・出身高校 豊川高等学校
- ・出身大学 星城大学
- ・主な戦歴 全日本学生大会出場 (個人・団体)



大橋 正登  
(おおはし まさと)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 愛知県設楽町
- ・出身道場 津具剣友会
- ・出身高校 星城高等学校
- ・出身大学 中京大学
- ・主な戦歴 全日本学生大会出場 (個人・団体)



加藤 圭磨  
(かとう けいま)

- ・剣道段位 三段
- ・出身地 愛知県東浦町
- ・出身道場 修徳館日比野道場
- ・出身高校 中京高等学校
- ・出身大学 近畿大学
- ・主な戦歴 全日本学生大会三位 (団体) 出場 (個人) 関西学生大会優勝 (団体・個人)、東海高校総体優勝 (団体)



板井 俊将  
(いたい しゅんすけ)

- ・剣道段位 四段
- ・出身地 大分県臼杵市
- ・出身道場 下ノ江少年剣道クラブ
- ・出身高校 明豊高等学校
- ・出身大学 鹿屋体育大学
- ・主な戦歴 全日本学生大会出場 (団体)、全国高校選抜大会準優勝 (団体)

# 刑務官だより



名古屋矯正管区  
警備指導官  
溝口 夏樹

## 刑務官における活動について

令和五年度における愛知県内の刑務官の主な試合結果について、報告します。

### 「名古屋管内施設対抗試合」

令和五年五月十二日、名古屋刑務所において、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区（富山、石川、福井、岐阜、愛知及び三重県）内の矯正施設における施設対抗試合（団体五人制）であり、全国大会の予選を兼ねている。結果については、激戦の末、予選リーグで名古屋刑務所に勝利した名古屋拘置所が第一位となり、全国大会への出場が決定した。

なお、来賓として愛知県剣道連盟の大嶽会長及び同連盟副会長に、ご臨席を賜った。

### 「全国矯正職員施設対抗試合」

同年六月二日、東京拘置所において、各地区の予選を勝ち抜いた十三の施設



名古屋管内施設対抗試合 第一位 名古屋拘置所

による標記試合が開催された。

名古屋管区の代表として出場した名古屋拘置所は、予選リーグにおいて、初戦で大阪刑務所と対戦し、先鋒の浅田選手がメンの一本勝ちで勝利し、次鋒から大将まで、その一本を守りきり、大阪刑務所に勝利した。続いて札幌刑務所との試合では、先鋒の浅田選手がメンを取られ一本負けを喫したが、次鋒佐々木佑選手及び中堅笠原選手が、共にコテの一本勝ちを収めて勝利し、副将青山選手及び大将佐々木富選手がこれを守り切り、札幌刑務所に勝利した。

準決勝では、今大会で優勝した福岡拘置所と対戦し、先鋒、次鋒が引き分け、中堅の笠原選手が相手選手に惜しくもメン二本を奪われ、副将青山選手及び大将佐々木富選手は、果敢に攻め続けたものの、相手選手に粘られ、両

名とも引き分けとなり、福岡拘置所に敗退したが、第三位に入賞した。大会の成績

- 第一位 福岡拘置所
- 第二位 広島刑務所
- 第三位 名古屋拘置所
- 第三位 熊本刑務所

### 「名古屋管内選手権試合」

同年九月八日、岐阜県大垣市武道館において、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区内の矯正施設から選抜された選手三十六名における個人試合であり、愛知県内からは、岡崎医療刑務所、名古屋刑務所、名古屋拘置所及び豊橋刑務支所の各施設から十五名の選手が出場し、第二位に藤原選手（名古屋刑）、第三位に岩坂選手（名古屋拘）及び第五位に柳井選手（岡崎医刑）の三名が入賞し、全国大会出場への出場が決定した。



### 「名古屋管内女子剣道試合」

同年十一月十日、福井県立武道館において、標記試合が開催された。

この試合は、名古屋矯正管区内の女子選手十三名における個人試合であり、愛知県内からは、名古屋拘置所及び豊橋刑務支所の選手七名が出場し、第三位に山元選手（豊橋支所）及び安達選手（同）、第五位に大谷選手（同）及び氏福選手（同）の四名が入賞し、全国大会への出場が決定した。

### 「全国矯正職員選手権試合及び同女子剣道試合」

同年十二月十四日及び同月十五日、







写真 左：井 真美子教士  
右：石井 都茂子錬士

大阪刑務所において、標記試合が開催された。  
試合に先立ち、名古屋矯正管区の井真美子教士が、大阪矯正管区の石井都茂子錬士とともに、日本剣道形の演武を披露した。  
同月十四日、同女子剣道試合（団体三人制）が行われ、全国から十三チームが出場し、名古屋管区から、豊橋刑務支所及び名古屋混成（笠松刑二名、豊橋支所一名）の二チームが出場し、残念ながら両チームとも、予選リーグで敗退する結果となった。  
同月十五日の午前中、団体試合に出場した三十九名の選手による同女子選手権試合が行われ、豊橋刑務支所の各選手（山元、安達、大谷及び氏福選手）は、全力を尽くしたものの、いずれも初戦で敗退する結果となった。  
同日午後から、同選手権試合（男子）が行われ、全国から予選を勝ち抜いた四十名の選手が出場し、岡崎医療刑務所の柳井選手がベスト8に入り敢闘賞を受賞した。



大会の成績  
（女子団体試合）  
第一位 大阪管区混成  
第二位 麓刑務所  
第三位 東京管区混成A  
第三位 東京管区混成B  
（女子選手権試合）  
第一位 本田 和（麓刑務所）  
第二位 阿部なるみ（笠松刑務所）  
第三位 玉置 菜七（大阪拘置所）  
第三位 椎井えりか（広島刑務所）  
（男子選手権試合）  
第一位 窪 俊充（福岡拘置所）  
第二位 蓮井 寿宗（播磨センター）  
第三位 坂本 大河（甲府刑務所）  
第三位 福田 雄馬（旭川刑務所）  
敢闘賞 古郡 章皓（横浜刑務所）  
敢闘賞 柳井 慎吾（岡崎医療刑務所）  
敢闘賞 村瀬 達也（東京拘置所）  
敢闘賞 片山 俊輔（松山刑務所）



「終わりに」  
以上が令和五年度における主な試合結果になりますが、次年度においては、更に精進を重ね、各試合において優勝を目標に頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

# 実業団だより



中部地区実業団剣道連盟  
事務局  
神谷 光顕

令和五年を振り返りますと、野球ではWBC優勝や大谷選手の活躍、男子バスケのパリ五輪出場決定、ラグビーW杯での奮闘と、日本スポーツ界の躍進がとも印象に残った一年でした。多くの明るい話題があった一方で、

世界情勢に目を向けると、気候変動に伴い激甚化する自然災害、地球規模での感染症、さらには悲惨な戦争といった深刻な危機を内包しながら動いた年でした。そして、新型コロナウイルスが招いた未曾有の事態も三年以上が経過して、ようやく収束の大きな転換期を迎えました。

コロナ感染拡大を契機に、テレワークの導入やオンライン教育の実施、さらにはオンライン診療など、あらゆる分野で急速にデジタル化が進み、国民生活や経済活動に大きな変容をもたらしました。政府による経済・社会活動の制限が撤廃されたことで、また新たなフェーズが始まり、個人、産業、社会といったあらゆるレベルにおいて変革が生まれ、新たな価値の創造が期待

されるところとなります。

剣道を取り巻く環境も大きく改善され、各所で稽古会や大会が盛んに開催されるようになりました。当連盟においても、令和五年度に予定した行事は、中止することなく全てを開催することができ、また、令和元年の開催以来、四年ぶりとなる審判講習会も開催することができました。

審判講習会は、平井道典先生と関屋猛久先生を講師に迎え、パナソニックデバイスSUNX本社の体育館にて、三十名を超す受講者を得て開催しました。

講習会では、最初に受講者に「審判法理解度テスト」を行い、審判法に対する自己の理解度を認識してもらい、座学と実技の講習に臨んでもらいました。

受講者は、コロナ禍の影響もあり、試合や審判から遠ざかっていた者も多かったが、理解度テストでは「自身が如何に勉強不足であったかを認識できた」との声が多く、座学や実技に真剣に取り組む姿勢が見受けられ、大きな成果を果したものとされます。「試合・審判規則」の習得は、年齢や修練のレベルにかかわらず、剣道の質を高める上で重要であると考えます。審判講習を受ける機会の少ない実業人剣士の審判技術の向上と意識の高揚を図るため、今後も取り組んで行きたいと考えております。

令和五年度は、実業団OBの活躍が目覚ましく、五月に京都で開催された剣道八段審査会において、トヨタ自動車OBの高旗豊樹先生が、合

格率0.9パーセントの難関を乗り越え見事に合格されました。実業人として生涯剣道で努力を続けられた結果の最高段位取得には、他の模範として、多くの実業団剣士に刺激を与える大きな成果となりました。

また六月には、日本武道館で開催された第四十五回全日本高齢者武道大会で、三菱重工OBの上北朝也先生が、寿A（八十五歳以上）の部で、見事に優勝を果たされました。なお、上北先生は、同大会において、過去にも四回優勝されており、今回で通算五回目の優勝となりました。八十五歳を過ぎた今もお鉄人ぶりはご健在で引き続き後進の指導と育成にご尽力されております。

本連盟主催の大会では、六月に開催した第五十七回中部地区実業団剣道大会並びに第三十六回中部地区実業団女子剣道大会に、男子四十一チーム、女子十四チームが出場し、熱戦を繰り広げました。男子の部は、昨年に引き続き大同特殊鋼本社が優勝を果たし、女子の部は、パローホールディングスが念願の初優勝を果たしました。

十月の第四十回中部地区実業団剣道段別選手権大会ならびに第五十三回中部地区実業団女子剣道選手権大会では、男子百五十七名、女子三十九名が出場し、日頃の成果を競い合いました。

コロナが収束に至っても依然として、参加者数は延びとどまっております。本連盟加盟の各社状況を確認すると、コロナ禍の影響による若手の剣道離れ

が顕著化していることが大きな要因となっております。

これは、若い世代に限らず、価値観の変化、暮らし方や働き方の変化が急速かつ広範に進み、さらには、少子高



個人優勝者



審判講習会



審判講習会実技

年齢も相まって大きな課題となっています。企業活動及び産業活動は現在、SDGsの達成に向けて「環境・社会・経済」を調和させながら長期間に亘って、それぞれの分野の成長を持続させていく「サステナビリティ」が求められています。実業団剣道におきましても、持続可能性の確保と強靱性の確保が求められ、創造的な体質の組織づくりによる実業団剣道の活性化が望まれます。本連盟が発足して五十八年、間もなく六十年の節目を迎えようとする今、このような時代にあたり、愛知県剣道連盟をはじめとした各関係団体とも連携を図りながら、今年度も会員各社と一体となって連盟の継続的な発展に寄与していきたいと考えております。皆様のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。



優勝 大同特殊鋼

○令和五年度大会結果報告

【第五十七回中部地区実業団剣道大会】

〔優勝〕

大同特殊鋼 本社

〔第二位〕

サンエイ 豊田

〔第三位〕

J R 東海 名古屋 B

生川倉庫

【第三十六回中部地区実業団女子剣道大会】

〔優勝〕

パローホールディングス

〔第二位〕

パナソニックデバイス SUNX 名古屋

〔第三位〕

パナソニックデバイス SUNX 春日井

NTTP名古屋トヨペット 西尾

NTTP名古屋トヨペット 西尾



優勝 パローホールディングス

【第四十回中部地区実業団剣道段別選手権大会】

\*六・七段の部

〔優勝〕

梅本 拓人 (J R 東海)

〔第二位〕

今泉 勇人 (J R 東海)

〔第三位〕

高井 英行 (マーツ)

\*五段の部

不破 充博 (豊田自動織機)

〔優勝〕

野地本 湊 (NTTP名古屋トヨペット)

〔第二位〕

後藤 理 (アズビル)

〔第三位〕

宮内 雄大 (豊田自動織機)

\*四段の部

稲葉 泰輔 (とこなめ)

〔優勝〕

安藤 千真 (大同特殊鋼)



審判講習会実技



第57回中部地区実業団剣道大会

〔第二位〕

茅根 颯人 (大同特殊鋼)

〔第三位〕

神野 大輔 (大同特殊鋼)

兵藤 佳亮 (大同特殊鋼)

\*三段の部

〔優勝〕

小川 僚介(サンエイ)

〔第二位〕

安藤 伊織(大同特殊鋼)

〔第三位〕

佐々木 駿人

(NTP名古屋トヨペット)

桂川 諒也

(NTP名古屋トヨペット)

\*二段以下の部

〔優勝〕

神戸 来輝(豊田合成)

〔第二位〕

大西 勘太(豊田合成)

〔第三位〕

鹿野 裕也(名古屋鉄道)

【第五十三回中部地区実業団

剣道女子選手権大会】

〔優勝〕

境井 葵(パロ―HD)

〔第二位〕

布野 由香(大同特殊鋼)

〔第三位〕

長谷川 凜

(NTP名古屋トヨペット)

平山 ひなた(トヨタ自動車)

※十月に開催する実業団剣道選手権大会は、転勤者や所属企業に剣道部がない方を対象に個人会員制度を設けて、広く大会出場者を募集しております。是非、ご参加ください。

道場連盟だより



愛知県剣道道場連盟 副会長 田村 彰浩



第120回愛知県剣道道場連盟研修会

愛知県剣道道場連盟では、二〇〇〇年(平成十二年度)より事業を大幅に見直し活性化を図ってきました。その一つが「愛知県剣道道場連盟研修会」であります。年々少子化が進み、やがて少年剣道人口の減少も進む予測がありましたので、何か連盟として歯止めになる活動を考えておりました。まず行ったのは「第1回 道場連盟 合同稽古会」を平成十二年八月十三日露橋スポーツセンターで開催しました。これが現在の「研修会」の第一歩でした。以前の愛道連の活動は団体戦・個人戦・道場対抗・実践体験発表会の四つの事業でありました。そこに「合同稽古会」(のちに研修会となる)を増やし、生徒・先生・保護者の三位一体が図れる交流の場こそが、少しでも少年少女剣道人口減少の歯止め対策と考えました。当初は年一回のみ開催し、平成十三年四月一日にナオリ会館で二回目の合同稽古会を開催しました。この時には生徒らはナオリ会館体育館にて練習試合、指導者はナオリ会館剣道場にて近藤勁助先生による指導稽古会を行い、まさに師弟同行の「研修会」のスタートになりました。平成十四年から「愛知県剣道道場連盟研修会」として年五回を目標に着実に開催運営をして参りました。昨年末(二〇二三年)で、この研修会回数も百二十回を迎えました。今後「ただ勝てば良い」という勝利至上主義」に陥らないように、本研修

会を通じて、刀法(技術)・作法(礼儀)・心法(心構え)の添わる「成長至上主義」の剣士育成の一助となる研修会開催を心掛けて参ります。そして、剣道を通じて健全なる子どもたちの育成に資するように微力ながら連盟事業に精励いたします。

●第十六回中部地区剣道少年団

研修会体験・実践発表会

開催日 令和五年十一月二十五日

中学生の部

最優秀賞

【末永く未来に繋がる剣道を信じて】

愛知県 江南武道館 東 美緒

小学生の部

優秀賞

【剣道が私の生き方を教えてくれた】

愛知県 江南武道館 加藤一葉



## \*愛知県剣道道場連盟活動指針\*



愛知県剣道道場連盟  
理事長  
下山 博之

令和二年度より愛知県剣道道場連盟の理事長に就任しまして早三年の月日が経ちました。現加盟道場も五十五団体を数え、多数の少年少女剣士が登録されています。平素は道場連盟の活動にご理解・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

現在、スジャータめいらくグループ社長日比治雄会長・小島義和会長代理・近藤勁助相談役・鶴田光敏・田村彰浩両副会長を役員に据え、理事十三名の評議により運営しております。

夏の日本武道館で開催されます全国大会予選会、個人選手権大会、師弟同行の道場対抗大会の三大会を中心に年数回の研修会と指導者講習会を行っています。また、昨年より愛道連杯争奪全国大会を開催いたしました。この大会は前身の近藤杯を受け継ぎ、全国各地より四三三チームが参加しました。今、全国的に剣道人口の減少が問題となっています。今後道場連盟としまし

ては、より多くの団体に加盟して頂き、情報を共有して子供たちに剣道の魅力を伝えていきたいと思っています。そして、剣道の勝ち負けだけでは無く、正しい人間形成を目的とした意義のある活動を目指してまいります。また、「若葉会」と言う若手指導者育成機関を設け、次世代の剣道普及にも取り組んでまいります。是非加盟して下さいます様お願い申し上げます。

## \* \* \* 挨拶 \* \* \*



愛知県剣道道場連盟  
事務局長  
浅井 誠一郎

この度、令和五年四月付けで、前任の内田信之氏から愛知県剣道道場連盟事務局長の重責を引き継ぐことになりました。いまだ若輩ゆえ、任を全うできるか、不安ではありますが、全力を傾けるつもりでございます。皆様方に迷惑がからないように精一杯努力する所存でございます。

昨今、コロナ禍の中、剣道関係の各種行事の中止や延期等多くあり、剣道人口の減少が加速することが予想されていましたが、昨年5月に新型コロナウイルス



愛知県剣道道場連盟若葉会

ウィルスが感染症法上の五類となり、それに伴って、活気を取り戻してまいりました。多くの大会や行事が開催することが出来ました。特に十月に開催いたしました「愛道連杯」には四三三チームの参加となりました。協力して頂きました関係者各位に、心より深く感謝申し上げます。

私は、三つの方針を掲げて取り組んでいきたいと思えます。

- (1) 少年剣道の普及・伝承
- (2) 各種行事の工夫
- (3) 若手指導者育成機関「若葉会」の補強

至らぬ点が多くあると思えますが、なにとぞ皆様方のご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

## 中体連だより



愛知県中小体連  
剣道専門委員長  
佐藤 祐広

本年度も中体連剣道競技部の活動に対し、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。本年度の中体連の活動は、昨年度までに比べ、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいだこともあり、それ以前並みに稽古や大会が実施できました。一生懸命剣道に打ち込む中学生剣士の姿に喜びを感じました。

愛知県総合体育大会観戦記と結果、東海総合体育大会入賞者紹介、強化練習と全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に向けた取り組みについて掲載させていただきます。

## 観戦記

## 第七十七回愛知県中学校

## 総合体育大会

日付 令和五年七月三十日(日)

男子個人は、中島選手(矢作中)と山崎選手(富士中)の対決となった。延長二回、機を見て中島選手が鋭い面を決め、栄光を手にした。



女子個人は、大嶋選手（志段味中）と吉本選手（尾張旭東中）の対決となった。大嶋選手は序盤から相手を攻め立て、二本を決めて優勝した。

男子団体決勝はシーソーゲームとなった。先鋒副将は八王子中が、次鋒大将は平坂中がそれぞれ一本ずつ取って代表戦となる。代表戦は、八王子中中堅の青木選手と平坂中大将細田選手の間合いを詰めようと動き出した瞬間を鋭い面であらえて一本を取り、優勝を決めた。

女子団体は逆転劇となった。西尾中先鋒秋元選手が面を取ると、中三人は引き分け、大将戦となった。大将戦は、平坂中清水選手の小手が刃え、二本連取、逆転勝利での優勝。県総体六連覇を達成した。

大会結果

男子団体

- 優勝 名古屋市立八王子中学校
- 第二位 西尾市立平坂中学校
- 第三位 西尾市立鶴城中学校
- 第三位 岡崎市立矢作中学校
- 優 勝 西尾市立平坂中学校
- 第二位 西尾市立西尾中学校
- 第三位 知多市立中部中学校
- 第三位 尾張旭市立東中学校
- 優 勝 中島 慎（矢作中）
- 第二位 山崎縁士（富士中）
- 第三位 山元祥太郎（南陽東中）
- 第三位 青木智将（八王子中）

男子個人

女子個人

- 優勝 大嶋虹乃美（志段味中）
- 第二位 吉本実優（尾張旭東中）
- 第三位 森谷奈央（桜丘中）
- 第三位 山下琉夏（知多中部中）

団体の優勝校、個人の優勝と二位の選手は全国大会へ、団体三位までの入賞校、個人ベスト8までの選手は東海大会へ出場いたしました。

第四十五回東海中学校

総合体育大会入賞者

日付 令和五年八月五日（土）六日（日）  
男子個人 優 勝 山崎縁士（富士中）  
第三位 水谷成那（春木中）  
愛知県代表選手が男子個人戦で優勝・三位と上位に入賞することができました。

強化練習と第十八回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に向けた取り組み

昨年度から愛知県剣道連盟のご協力により、各地区から強化選手を選出して強化練習を実施させていただきました。中学生全体のポトムアップと都道府県代表選手の選考を行うことができました。選手決定後は、福島監督（名古屋市立楠中学校教諭）の指導の下、強化稽古で攻めと技を磨き、週末の遠征で経験値を高めました。大会は、それまでの稽古で培った攻めの効いた試合が

展開でき、広島県に勝利しました。続く宮城県に敗退しましたが、強化練習の成果が実感できる大会となりました。今後も、今年行った強化を継続させていただき、中体連の先生方との連携を計りながら愛知県の中学生がこれまでに以上の成果を上げることができるように取り組んでいきたいと考えています。

# 高体連だより



愛知県高等学校体育連盟  
剣道専門部 委員長  
田中 勝明

今年度も高体連剣道専門部の活動におきまして、多大なご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。本年度は四年間のコロナ禍を乗り越えてほとんどの活動が通常の形に戻され、高校生剣士たちは元気で澁刺とした日常を取り戻し、日々稽古に励んで参りました。

今後も高体連剣道専門部をよろしくお願い致します。

今年度、第三十三回を数える、全国高等学校剣道選抜大会を目指し昨年十一月に行われました愛知県大会の戦評を掲載させていただきます。

## 令和五年度愛知県高等学校

### 新人体育大会

#### 戦評

男子団体戦決勝、岡崎城西高校対星城の戦いとなりました、先鋒戦岡崎城西（小野田）と星城（太田）の戦いは、



男子三位 愛知高等学校



男子二位 岡崎城西高等学校



男子優勝 星城高等学校

互いに打ち合うも決め手がなく時間となり、引き分け、次鋒戦岡崎城西（瀧川）対星城（大洞）先鋒戦に続き激しい打ち合いが続くが、有効打突なく引き分け、中堅戦岡崎城西（鷺見）対星城（上山）上段の鷺見に対し、上山が鋭く攻め入り、鷺見の構えが下がった所に見事な小手を決め、そのまま一本勝ち、副将戦岡崎城西（板津）対星城（杉浦）激しい打ち合いの中、星城杉浦が相手に接近した一瞬の隙をつき引き胴を決めた、ここで星城の優勝が決まる。

大将戦は岡崎城西（志賀）対星城（東）の戦い、志賀が遠間からの面で飛び込むも、東が落ち着いて返し胴を決めた。

女子団体戦決勝、岡崎城西対星城の戦い、先鋒戦岡崎城西（近藤）対星城（奥田）お互い積極的に打ち合うも有効打突がなく、引き分け、次鋒戦岡崎城西（豊田）対星城（伴野）開始早々に伴野が上段からの諸手小手を決める、豊田も取り返そうと果敢に技を出す、そのまま時間となり、伴野一本勝ち、中堅戦岡崎城西（柵木）対星城（関屋）お互いに慎重な試合運びとなり思い切った技が出ず、引き分けに終わる、副将戦岡崎城西（鈴木）対星城（加藤）何とか一勝を取りたい上段の鈴木に対し加藤が小手を狙った所に返し面を決め一本先取、中盤鈴木が遠間からの思い切った片手面を決め二本勝



女子三位 桜丘高等学校



女子二位 星城高等学校



女子優勝 岡崎城西高等学校

ちとする、勝負のかかった大将戦岡崎城西（浅岡）対星城（山内）両者激しく打ち合うが有効打突にならず、引き分けとなった、岡崎城西が昨年の雪辱を晴らし優勝を決めた。

大会の成績は以下の通りです。

- 男子団体優勝 星城高等学校
- 準優勝 岡崎城西高等学校
- 第三位 愛知高等学校
- 第四位 豊川高等学校
- 第五位 明和高等学校
- 第五位 名古屋工業高等学校
- 第五位 桜丘高等学校
- 第五位 名古屋大谷高等学校
- 女子団体優勝 岡崎城西高等学校
- 準優勝 星城高等学校
- 第三位 桜丘高等学校
- 第四位 中部大学春日丘高等学校
- 第五位 愛知高等学校
- 第五位 時習館高等学校
- 第五位 明和高等学校
- 第五位 阿久比高等学校

男子団体・女子団体それぞれ第三位までが愛知県春日井市で開催の第三十三回全国高等学校剣道選抜大会に出場、第五位までが三重県伊賀市で開催の第十回東海高等学校剣道選抜に出場致します。

出場校の活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 愛知県学校 剣道連盟だより



愛知県学校剣道連盟 理事長 半田 憲生

愛知県学校剣道連盟は、幼・保・小・中学校、高校、大学等に勤務する教職員を構成員として、教職員大会予選、地区対抗大会、都道府県対抗大会予選、各地区持ち回りの稽古会・懇親会といった活動を通して、剣道の発展に寄与していくことを目的としています。

令和五年六月三日に、令和五年度全国教職員大会のための愛知県予選会が、名古屋市稲永スポーツセンターで行われました。集まった選手により力が入った試合が展開され、七名の選手が選出されました。この日、予選会に続いて、総会、地区対抗大会も開催されました。県内各地の教職員が親睦を深めるよい機会となりました。

令和五年度八月十日には、全国教職員剣道大会島根大会が、松江市総合体育館で行われました。選手は試合会場の下見と練習のために、前日九日の午後、現地入りしました。稽古でしっかり汗をかき、夜は夕食会で語り合い、

結束を固めて試合に臨みました。

団体戦の一回戦の相手は試合巧者の福島県でした。先鋒清水（平坂中）は、小手を攻めて面を鮮やかに決めたものの、小手抜き面を奪われて引き分け。次鋒・那須田（港特別支援校）は、相手が何度もつば競り合いを繰り返して相手が反則を取られた後の中盤、鋭い突きを放ちましたが上がった旗は、本で決めきれず、そのまま引き分け。中堅・服部（木曾川高）は、やや膠着した試合となり、お互いに思い切った打ちが出ずに引き分け。副将・長屋（愛知総合工科高）は、一転して、攻め合い、打ち合いとなる中で面を先取され、さらに、小手をおさえられて二本負け。大将・浜崎（豊田大谷高）は、ポイントを取り返そうと火の出るような攻めを見せ、奮戦しましたが相手の受けを破ることができずに引き分け。惜しくも一回戦での敗退となりました。選手はよくがんばりましたが、昨年度のベスト16に比べると、やや残念な成績でした。

男子個人戦では、村瀬（中京大）が、一回戦は、相手をよく攻め、飛び込み面を二本を連取して勝利。二回戦は、攻め合いでは勝っているもののポイントが決められず、延長の末、下がり面を決められ、敗退。女子個人戦では、中村（愛知黎明高）が、一回戦から優勝候補の一角とされる相手に、よく善戦しました。中盤、面を放ったところを相手が体を崩しながらの胴、審判の旗は面一本、胴二本。これが決め手となって一本負けで

した。

十月七日には、蒲郡市体育館武道場で地区持ち回りの稽古会が、会員二十名ほどを集めて行われました。どうしても自分の指導するチームの練習に忙しいのか、若手会員の数はちらほら、それでも気迫のこもった稽古が行われました。最初はけがをしないようにと慎重に動いていた会員もいたのですが、特に壮年会員の先生方の気合いにあおられ、ついつい夢中となって体を動かしていました。いい汗をかくことができました。

稽古が終わった後の、懇親会には、二十代の会員から六十歳過ぎの会員までが参加しました。小中学校の部活動の地域移行について、どの地域が進んでいるか、どんなやり方をすればうまくいくかなど、情報交換も行われていました。また、子供の満足感や「できた」という実感を大切に最近の指導法に感心したり、それで強い心が育つのかと指摘したりし、年齢は違っても、剣道という共通の話題で誰もが打ち解けて語り合いました。

令和七年八月には、全国教職員剣道大会が愛知県で行われることが決まっています。会場は、修復したてとなる西尾市総合体育館を予定しています。少しずつ準備を進めていますが、まだまだ情報がゆきわたっておらず、これからです。この機会に愛知県の教職員の皆さんには、自分たちの教え子の前で、「先生もまた、剣道に精進する者の一人である」と活躍してほしいと願っています。



# 東海学生 剣道連盟だより

## 東海学生剣道連盟の

### 活動について



東海学生剣道連盟  
理事長  
六郷 恭二

東海学生剣道連盟では、毎年一月に開催される定例理事会で承認を受けた事業計画に基づいて、各種大会、審判研修会、加盟大学によるリーダー研修会等を実施している。

また、関連団体としての、東海私立大学剣道連盟、東海学連剣友会とともに連携を図りながら様々な事業展開を行っている。

### 【主な年間行事】

四月 審判研修会（主催 全日本学生剣道連盟 主管 東海学生剣道連盟）

五月 東海学生剣道選手権大会（兼全日本学生（女子学生）剣道選手権大会予選）

六月 東海学生剣道新人選手権大会

東海学生剣道連盟1部2部入替戦  
九月 東海学生剣道優勝大会（兼全日本学生（女子学生）剣道優勝大会予選）

十月 東海学生剣道審判研修会

十一月 全日本女子学生剣道優勝大会

東海学生剣道新人優勝大会

十二月 東海学連剣友剣道大会

一月 東海学生剣道連盟定例理事会

三月 東海私立大学剣道選手権大会

東海学生剣道連盟リーダーズセミナー

令和五年度は、コロナ禍で大学入学

直後にロックアウトを経験し、剣道部の活動を含めた大学生活に最も大きな影響を受けた学生が四年生を迎える年であった。そのため、本連盟では、可能な限りコロナ禍以前のような「有観客」で「保護者も入場可能」とする大会運営ができるように配慮した。また、遠方などで直接試合観戦が困難なサポーターのために、関係メディアと協力して、全日本へ繋がる大会を中心にライブ配信を始めることとした。

幸いにして、予定をしていたすべての大会を開催することができ、危惧していた大会直後にコロナ感染者、その他の感染症が大会の実施により発症するような事態は起きなかった。これもひとえに、大会運営に多大なる時間を割き、協力してくれた連盟幹事学生の協力の賜物と感謝している。

また、本連盟の最大行事の一つとして、

「全日本女子学生剣道優勝大会」

主催 全日本学生剣道連盟

毎日新聞社

主管 東海学生剣道連盟

が挙げられる。この大会は、共催団体である毎日新聞社、毎年会場として春日井市総合体育館をご提供いただいている春日井市を始め、関係各諸団体の絶大なご支援、ご協力を得て開催している。

本連盟では、人口減といった社会現象に伴う大学生数、剣道部員登録数減少という課題に正面から向き合い、学生剣道発展の一助となるような活動を今後も展開していきたい。

【令和五年度全国大会予選結果】

第七十回東海学生剣道選手権大会

（兼全日本学生剣道選手権大会予選）

優勝 倉石 隼輔（中京大）

準優勝 大竹野 学（朝日大）

第三位 藤田 仁平（中部学院大）

第三位 田外 祥規（星城大）

第五十五回東海女子学生剣道選手権大会

（兼全日本女子学生剣道選手権大会予選）

優勝 市川結里加（中京大）

準優勝 竹下 思美（中京大）

第三位 遠藤 華（星城大）

第三位 石井 桃花（星城大）

第七十回東海学生剣道優勝大会

（兼全日本学生剣道優勝大会予選）

優勝 中京大学

準優勝 星城大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学

第三位 朝日大学

第三位 中部学院大学



東海女子学生優勝大会 優勝 星城大学



東海学生優勝大会（男子）優勝 中京大学

第四十六回東海女子学生剣道優勝大会  
（兼全日本女子学生剣道優勝大会予選）

優勝 星城大学

準優勝 中京大学

第三位 朝日大学

第三位 名古屋経済大学

地区だより

【尾張剣道連盟】



尾張剣道連盟  
事務局長  
安田 徹夫

今回は、尾張剣道連盟女子部の活動内容を報告させていただきます。令和五年度は次のような活動を行いました。



稽古前の素振り



東日出男先生の指導

- 四月 稽古会（津島市錬成館）
  - 五月 審判法講習会（春日井市総合体育館）
  - 七月 形講習会（江南市武道館）
  - 十月 稽古会（小牧市武道館）
  - 一月 指導法講習会（春日井市総合体育館）
- 尾張剣道連盟は十三の地区から成り立っており、地域も広いので、会場を固定せず、各地区で会場を設定しています。
- また、十三地区それぞれに委員を置き、会員に情報が行き渡るよう配慮しています。



稽古会風景

講師はすべて東日出男先生にお願いしており、厳しい中にもユーモアのあるお話のおかげで、真剣かつ楽しく充実した稽古、講習会を行うことができました。

十月の稽古会では、遠い間合い、一足一刀の間合いからの基本打ちなど、自分から攻めて見て打つことを意識して、繰り返し行いました。次はどう攻めたら相手が動くのかを体験し、応じ技である返し胴・すり上げ面・相小手の練習をしました。理解はしていても実際には上手くできない状況がありました。そんな時も先生には根気よく

ご指導をいただきました。

一月の指導法講習会では、一つ一つの技を丁寧にご教授いただきました。基本打ちは大きく・ゆっくり・正しく行い、四十代から七十代と幅広い年齢層ですが、先生の言葉をしっかりと聞いて、各自目標を持って取り組みました。

その後、応じ技の返し胴・出ばな面・出小手に移り、技を出したい側が誘って引き出す稽古、回り稽古で終了しました。

参加者のほとんどが仕事をしながらの主婦や高齢の方もいらっしゃいますが、それぞれが昇段審査を目標に頑張っています。毎回、東日出男先生には審査会に向けての取り組みをご指導いただいています。

一月の講習会の折、今年度、七段に昇段された二人の方々にお祝いの品を贈呈しました。毎年、尾張剣道連盟女子部からは昇段者が誕生し、この女子部の活動が一役買っているのではないかと思います。

平日開催にもかかわらず、平均して三十名を超える参加があり、熱心で和気藹々とした雰囲気で行われています。

今後は、女子部の活動を外部に向けても発信し、何歳からでも始められ、いつまでも続けられる剣道の良さをアピールして、新たな会員を増やしていければと思います。

## 【名古屋市剣道連盟】



名古屋市剣道連盟  
事務局長  
白石 裕章

令和五年五月八日、新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、以後世の中が通常の生活へと徐々に戻るようになり、人々の行動にも、徐々にコロナ前の生活へと戻ってきました。

本連盟でも、段級審査、各種大会、講習会等、徐々に厳重なコロナ対策が徐々に解かれるようになり、強いられていた制約も段階的に緩和されるようになりました。しかし、コロナによる影響は小さくなく、様々な事業において、コロナ前のような参加人数にはなかなか届かない状況が続きました。その原因の一つに、各道場において、本来の活動場所が確保できず、毎回場所が変わることで意欲を失い剣道以外の活動に転身したりするなど、子供たちを取り巻く環境の変化に対応できなくなったことも影響したようです。

しかしながら、コロナ禍が続く中ではあるものの、本年度は予定されていた各事業はすべて行われ、コロナ前のような活気が戻ってきました。六月十一日には第二〇回名古屋市剣道選手権が行われ、七八〇名の参加者が露橋



スポーツセンターに集い盛大に行うことができませんでした。

ところが、年に三回行われている初級審査では、コロナ前の人数には辿り着けずの状態が続きました。特に級審査は一・二級と三・八級をそれぞれ別の日に実施していましたが、春季の審査会でいずれも午前中で終了してしまいうほど受審者が少ない状況でした。このような状況はすぐには改善することの見込が立たないことから、一級から八級までを一日で行い、予定されている一日目を木刀による剣道基本技稽古法の講習会を実施し、より確かな動きを身に付けさせるために取り組みました。

講師には、教士七段福田武雄先生、同じく教士七段鈴木 篤先生の二人の講師の指導により行われました。

一方、受講生としては、級審査を受審する小中学生、各道場の指導者等、審査を目的として参加する者や、受講することによって、改めてより正しい動きを身に着けることで、指導に役立つ

てるなど、さまざまな目的をもつて参加に臨んでいました。

講習の内容としては、前半と後半に分けて行いました。

まず、前半では、基本一から順に基本九までの動きを正しく行えるように順番に指導実践しました。日頃、なかなか適切な指導を受けることができていなかった受講生にとっては、大変身になる内容になったようで、生き生きとした表情で取り組んでいました。

前半を終え、十分ほどの休憩の後、後半へと進み、基本一かと基本二を受審する三級を対象としたグループ、基本三から基本五を対象とした二級を受審するグループ、そして、基本六から基本九までを受審するグループに分かれ、指導者として参加した受講生には、それぞれのグループに分かれて取り組みました。特に、受審する受講生にとっては、審査の際に、正しく行えるようにするためのしつかりとした目的意識があるため、さらに真剣な表情で取り組んでいました。正しい動きを学べる



ことに対する安心感が真剣さを生み出すことにつながっているようでした。

この講習会を通して、受審を控えた受講生にとっては、審査に臨むにあたり、審査の場面での自信につながることでできたようです。また、指導者として参加した受講生にとっては、より正しく伝えることに確信を得ることができ、指導場面で大いに役立つことにつながったようです。

後日行われた審査会では、より正しい動きが身についた受審者が多くみられ、講習会での取り組みの成果が出たことが確かめられました。

この講習会によって、大きな成果を得ることができたため、秋季にも行ったところ、中学校の部活動で取り組んでいる中学生の多くの参加があり、正しい動きを身につけることができ、審査の場面でより良い評価につながりました。より正しく基本的な動きを身につけることができ、剣道実技の技能向上にも役立つことが期待され、講習会の意義が高められました。

今後は、より正しく基本的な動きを身に付けさせるために、講習会の開催等、連盟として努力していきたいと考えます。



【西三河剣道連盟】



西三河剣道連盟  
事務局長  
手嶋 道雄

西三河剣道連盟では、六部門の専門委員会を設置し、大田義弘理事長を総括者として各分野で常に現状のままの姿で満足することなく常に改善すべき問題点を探し出すことを意識しています。

小さな気づきでもしっかりと委員会議論で解決の道を求めます、時には衝突することもありますが優先すべきことを明確にし、参加者が開催行事で満足してくださることを願い真剣に取り組んでいます。

① 総務・表彰委員会

委員長 長沼嗣雄（構成五名）

総務・表彰委員会は理事長の諮問機関として副理事長及び選任理事が分担し、理事会から諮問を受けた事項について調査研究及び専門委員会（総務・表彰委員会）の行事の実施にあたる。

総務・表彰委員会の会議開催は年度により異なるが、過去の例から一年間で二〜三回程度開催されている。主な協議事項については、以下の調

整などを担当している。

- ① 諸規程の確認見直し、改廃。
- ② 「功労章」被表彰者の選考。
- ③ 「八段・七段昇段表彰」お祝い授与者の選考。
- ④ 「優秀選手賞」被表彰者の選考。
- ⑤ 慶弔規定による祝賀会等の該当者の確認。
- ⑥ 「全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞」被団体の推薦、選考。
- ⑦ 規程改正等の内容に応じて他の専門委員会との調整。

※コロナ感染予防対策に長期間献身的に活動をされた方々に西三河剣道連盟会長より感謝状が授与された。

② 財務委員会

委員長 鈴木 睦（構成五名）

財務委員会は、本連盟会計規則に従って会計処理を実施している。

本連盟の二〇二二年度までは、収入の部・支出の部の収支報告決算書を作成していたが、二〇二三年度からは貸借対照表および損益計算を明確に表示することとした。

財務状況を明確に把握していくために月次の整理を原則とし、隔月に財務委員会を開催し会計処理が適正に処理されているか状況を把握することにより、当剣道連盟の合理的運営に役立て行く。

また、特に連盟内各団体からの助成金申請には財務委員会にて内容が適正か否か審議精査している。

少子化傾向による運営の影響に於いても臨機応変に応じて行くことが問われてくるのではないかと。

③ 大会委員長 長沢賢治（構成十名）

大会委員会は、本連盟が主催・共催・後援する審判員・運営役員の人選及び、各大会と剣道祭の企画・運営をしている。各大会に安全・安心・合理的を前提として開催するため大会開催前には各大会の反省を活かし、前回の不具合を改善し実行に向けて慎重な意見交換を重ねている。コロナ対策に於いては本委員会の活躍により西三河剣道連内の感染防止に威力を発揮することが出来た。この経験は大きく評価できることとなった。

以下、委員会主体事業令和五年度の各大会等

- ① 第七十回 西三河剣道大会
- ② 第四十九回 西三河剣道段別大会
- ③ 令和五年度西三河中学校選手権大会の審判員選出
- ④ 全三河高校剣道大会審判員選出
- ⑤ 第二十二回 西三河日本剣道形大会
- ⑥ 令和五年度 西三河高校新人戦
- ⑦ 西三河高校剣道大会への派遣審判員選出
- ⑧ 三十九回 西三河少年剣道大会
- ⑨ 第二十二回 西三河剣道祭

④ 審査・講習委員会

委員長 岡田眞直（構成八名）

○ 教士七段の先生方から当剣連の審査員講習会の開催

○春季／夏季／秋季／に開催される級位審査会の審査員の選定

上記講習を受講された先生より経験豊富な先生から新教士の先生まで偏りのない選定を行います。

○剣道初～三段形講習審査に備えた形講師の選定

○一級から三級までの木刀による剣道基本技稽古法の技の選定。

級位審査員の選定では改めて年三回の指導者講習会として教士八段の先生を主任講師に迎え、「剣道審判法」「日本剣道形及び形大会審判法」「剣道指導法」の講習会を実施しております。

当委員会では上記を通して会員の各種技術の向上、剣道普及と活性化への取り組みを行っております。

### ⑤強化委員会

#### 委員長 倉成健治（構成十二名）

（強化委員会の事業目的）

西三河における剣道の普及及び発展のため、我が国の伝統文化である剣道を正しく継承し、その発展を図り「剣道の理念」に基づき高度な剣道を目指しております。

主な事業として

○西三河の中学生を対象に強化稽古会を実施しております。

年五回開催・午前と午後に男女別に二部制とし、参加者の技術レベルを考慮「基本クラス」と「実践クラス」の二組に分かれ、教士八段の先生を主任講師とし、補助講師には警察官や刑

務官、実業団、教員から優秀な先生を選出して実施しております。

○月例稽古開催

○稽古納め・始め

○西三河九地区主管の持ち回り稽古会の開催

○県外交流稽古会の企画運営

⑥居合道委員会 水野 隆（構成三名）

○春季居合道講習会

○大会、伝達講習会

岡崎・みよし・豊田を中心に開催

○剣道祭にて居合の四段以上が演武を披露

○地区剣道教室で剣道・居合道共同稽古を実施

○西三河剣道大会時に於いて、親子・兄弟姉妹・小学生等の演武が好評を得ています。

このように、剣道と居合道が融合し武道のみちを開いていくことが期待されます。

剣道大会に参加した小学生、中学生そして家族知人の皆様に居合を知って頂き、剣道と居合は・・・

竹刀と刀も元は同じ。

剣道に役立ちます。

居合は打ち合いません。

一人で行い、自分の努力で上達出来ず。

来ます。

・・・一人でも多くの小・中学生・父兄の方々が居合を志していただけることを期待します。

## 【東三河剣道連盟】



東三河剣道連盟  
事務局長  
夏井 善久

### 居合道伝達講習会

令和五年十月十五日（日）豊橋武道館において居合道伝達講習会を実施しました。

講師には愛知県剣道連盟より水野隆八段を迎え、五十名あまりの参加者のもと、居合道と剣道は所作の相違に始まり、実際に真剣を持ち、対峙した時に感じる感覚を、講習生を前にして行うなど、肌で感じる内容で、丁寧にご指導いただきました。初めて居合道に接する参加者の中には、水野講師と対峙した様子をやや興奮気味に講習会後、話す方が見えました。また、すでに居合道に親しみ、研鑽を積んでみえる講習生の方の中にも、良い機会に恵まれたとの声が聴かれた講習会でした。

### 形講師要員・級審査員候補者研修会

令和三年より新規事業として開催された、本事業を今年度も令和五年四月八日（日）に開催しました。年三回実



施される初～三段の形講習会の講師と年五回の級審査会の審査員の木刀を使った剣道基本稽古法や審査基準の要点的理解や確認を目的として行うものです。毎年度の初めに実施し、参加者の研鑽の場所として定着をしてきました。本年度も畠山隆吉先生を講師に招き、熱心に指導して頂きました。参加者の方々もより細部にポイントを求め研修する様子が見えられました。今後継続していきたい行事の一つです。

### 胸骨圧迫法・AED研修会

高齢化社会が進む日本。様々な競技で高齢者の取り組みが話題になっています。そんな中で、剣道でも高齢化は否めません。特にリバイバル剣道（リ

バ剣)とも言われ、再び剣道に親しんでみたいという方も増えてきていると聞き及んでいます。コロナ禍で様々な取り組みの中で稽古や試合を実施してきました。感染症対策は無論のこと、熱中症対策や換気などにおいても、どの稽古会場においても実施してきました。その中でも、本年度の特色として、七月から九月にかけて各地区の連盟において心肺蘇生法・AEDの研修会を実施しました。八月には豊橋地区、九月には豊川地区で、連盟の会員であり現役の救急救命士の方に指導を受け実施しました。十月には、さらに多くの方々に研修を受けていただき、万が一に備えることを目的として、十月十五日(日)に連盟の会員であり、救急で



居合道伝達講習会

も指導の立場の経験のある宮野祐一先生にお願いし講習会を実施しました。DVDを利用して二グループに分かれ、ポイントを視聴したのちに人形をもとに実践するなどして研鑽に努めました。一時間余りの講習でしたが大変充実しており時間が過ぎるのを忘れてしまうほどでした。いづどんな場面でも遭遇するかわかりません。また、自身自身が手当てを受けられる立場となるかわかりません。今後も機会をとらえては、継続実施することで、広めていきたいと考えています。

**節目を終えて**

令和五年は、設立七十周年の記念大会を盛会のうちに終えることができました。暮れには、本連盟の稲吉悟会長



胸骨圧迫法

が、全日本剣道連盟より剣道有功賞を受賞され、今後の発展に一層の弾みとなりました。

今後の課題は、剣道人口の減少をくいとめることです。令和四年度、五年度の武徳祭剣道大会の参加人数はコロナ禍前と比べると、明らかな減少傾向が見られます。これらを少しでも抑えられるために、各地区で大会や稽古会の充実を図っていただいています。本年度第一回の理事会でも、来年度の武徳祭の参加人数を少しでも増やそうという話し合いがもたれました。連盟の発展のために今後も会員の皆様のご協力を頂いていきたいと思っています。



形講師養成研修会

**【尾南地区剣道連盟】**



尾南地区広報委員長  
森川 昭仁

**第十八回メデイアライフ杯**

**尾南地区マスターズ剣道大会**

本大会は、平成十八年度に第一回が開催され、毎年行われてきましたが、新型コロナウイルス感染症により第十五回から十七回は中止となりました。しかし新型コロナウイルス感染症が五類に移行したため令和五年度には本大会を四年ぶりに第



中央が阿部麻子先生



試合

十八回目として迎えることができました。本大会が行われる経緯につきました



開会式

本大会は、年代別に男子①三十才代の部、②四十才から四十四才の部、③四十五才から四十九才の部、④五十才

町総合体育館において、第十八回メデイライフ杯尾南地区マスターズ剣道大会が開催され、八十六名の剣士が参加しました。

令和五年九月十八日に知多郡南知多町総合体育館において、第十八回メデイライフ杯尾南地区マスターズ剣道大会が開催され、八十六名の剣士が参加しました。



拝見試合 (左 安部秀利先生 右 北村 豊先生)



試合

は、尾南地区剣道連盟三十周年記念行事として故濱田修作元会長のご尽力と医療法人メデイライフ理事である阿部麻子様のご提案とご協力により開催されることとなりました。これからの長寿社会に即応した大会として、回を重ねるにつれ益々盛会になることと期待でき、本連盟の誇りとなる大会に成長することへの願いが込められていたとお聞きしております。

から五十四才の部、⑤五十五才から五十九才の部、⑥六十才から六十四才の部、⑦六十五才から六十九才の部、⑧七十才以上の部、女子①三十才代の部、②四十才代の部、③五十才代の部の十一ブロックに分かれてトーナメント戦と一部リーグ戦により三試合場で行われ、若い方には見られないような年輪を重ねた世代の気迫がこもった味のある試合が展開されました。また、上記試合の後に六名の諸先生の拝見試合が行われました。



合同稽古

飲み込むような迫力のあるたいへん素晴らしい試合を拝見させていただきました。大会終了後、合同稽古も行われ、多くの方が参加されました。本大会は、年齢を重ねていくうちに普段の試合からだんだんと遠ざかっていく方やほとんど試合に縁がなくなってしまう方などいろいろな方が年代の近い方たちと試合ができ、また交流し親交を深めることができるということで身体も心もリフレッシュできる素晴らしい大会だと思えます。これからもこのメデイライフ杯剣道大会にたくさんの方が参加されますことを願っております。

# 役員

(令和六年度現在)

会長  
副会長

相談役

参  
与

牧野	瀧下	東	松	水	細	伊藤	林	近	白	山	内	後	北	菅	和	松	安	勝	稲	渡	平	松	祝	大
賢	一	順	日	明	好	一	邦	勁	孝	允	武	英	幸	伊	秀	寿			健	要	一	司	將	文

山	小	上	大	中	日	堀	竹	東	古	松	三	松	田	田	日	塩	都	安	木	杉	熊	高	渡	光	山	市
口	山	北	河	川	置	山	味	由	由	萬	利	芳	良	源	輝	隆				雅	洋	潤		昌	武	
和	宗	鞆	鉄	治	介	健	由	由	萬	利	芳	良	源	輝	隆					雅	洋	潤		昌	武	
義	章	也	彦	彦	二	治	登	子	美	幸	郎	高	五	志	夫	厚	学	正	仁	人	二	一	香	勉	宏	利

理  
事

常  
任  
理  
事

理  
事  
長

正	今	手	山	倉	中	野	原	山	東	安	加	北	平	島	大	丹	尾	穂	東	高	木	長	山	熊	今	神	前	牧	長				
田	泉	嶋	口	成	村	末	田	崎	良	徹	夫	隆	一	典	吉	弘	則	之	孝	良	樹	み	ゆ	き	久	夫	尋	子	顕	吾	夫	治	
哲	道	照	健	憲	敏																												

評  
議  
員

監  
事

江	池	大	牧	白	稲	堀	榎	渡	高	水	平	安	加	久	小	中	祝	麦	井	小	白	二	成	内	中	水	田	森	中	夏			
原	谷	嶽	野	井	吉	山	本	並	橋	田	原	保	藤	保	山	川	田	出	島	石	橋	瀬	田	西	野	中	園	村	井	善			
清	敏	將	孝	孝	健	鐘	猛																										
彦	夫	文	夫	一	悟	治	司	直	敏	涉	稔	正	夫	史	章	彦	司	弘	昭	巳	章	隆	惠	之	男	隆	明	俊	信	久			





剣道五段 (令和五年四月二十三日)

(日本ガイシ)

- 水野 修平(24) 田之上 聖(25)
- 田中 裕紀(26) 高山 敏宏(27)
- 山崎 鈴乃(28) 菅原 渉(29)
- ツタヴィクトル(30) 澤田 彩香(33)
- 内藤 顕一(34) 西久保 潤(36)
- 大竹 未緒(42) 浅井 裕司(43)
- 阿部 康志(46) 原田 博臣(48)
- 山本 理志(49) 大石 宙生(53)
- 杉浦 政之(54) 波多野慎也(57)
- 倉地 尚(57) 藤野 廉勇(59)
- 高木 剛(61)

剣道八段 (令和五年五月一日)

(京都)

- 高山 潤一(69) 高篠 豊樹(69)

(京都)

剣道錬士 (令和五年五月六日)

(京都)

- 東 一良(73)
- 中田 将人(39) 上野 志朗(40)
- 岩月 達弘(44) 和久田千春(45)
- 榎 恵理子(45) 今泉 延之(46)
- 井上 浩爾(46) 今泉 勝也(49)
- 岡島 庫人(50) 海林 幹拓(50)
- 加藤 直世(52) 山田 英貴(52)
- 桂木 真一(53) 大鹿 和徳(54)

剣道七段 (令和五年五月十三日)

(枇杷島)

- 西桐奈穂美(55) 田丸屋直子(55)
- 井寺 利恵(55) 金時 朋広(56)
- 大塚夫久美(56) 藤村 享邦(56)
- 青木 友邦(56) 芝 龍二(56)
- 野村 明憲(63) 梅本 高靖(64)
- 江原 慎人(65) 金井 一泰(72)
- 牧野 勇夫(80)
- 島中 力(40) 浅井 博晶(43)
- 高松 真澄(44) 置田 訓子(46)
- 日比野恵津子(48) 鈴木 桂(50)
- 安部 花奈(51) 北田 重人(53)
- 吉田 繁敬(54) 中江 新勝(54)
- 加藤 太郎(54) 小出 鋼一(57)
- 青山 敏彦(57) 濱崎 克也(58)
- 小林 尚美(62) 成田 光明(64)
- 伊藤 隆仁(66) 尾崎 師成(68)
- 中村 晴男(73) 清野 祥一(74)

剣道六段 (令和五年五月十四日)

(枇杷島)

- 栗栖 孝明(28) 一柳 岳(31)
- 福岡 隆二(33) 西川 真平(35)
- 久田 英治(42) 佐藤 千早(44)
- 深津 紀子(45) 夏目 利徳(45)
- 有木 直史(46) 志津 匡人(47)
- 坂 亜咲子(49) 畔柳 太一(50)
- 中村 貴美(51) 井村 春之(52)
- 肥田 良作(53) 河村 昌徳(53)
- 渡邊 一矢(54) 中野 悟(55)
- 潮田健太郎(56) 大谷 英樹(59)
- 高木 浩(59) 高牟禮英利(60)
- 小川 秀史(62) 井上 雅之(63)

居合道七段 (令和五年七月二十一日)

(栃木)

- 伊藤 隆夫(75)

居合道六段 (令和五年七月二十一日)

(栃木)

- 山口 貴史(46)

剣道五段 (令和五年八月六日)

(北)

- 三浦晃太郎(23) 日谷 太祐(25)
- 山村 竜輝(26) 村田 雅俊(27)
- 西宮 圭佑(27) 那須田圭祐(27)
- 土手 美里(28) 鎌田 拓郎(28)
- 平田 久人(30) 水谷 佳紀(32)
- 竹内 秀充(34) 松下祐香莉(35)
- 野口晃太郎(36) 川口 裕康(38)
- 戸谷 高(39) 竹内 章人(41)
- 辻 高明(43) 金 基玄(46)
- 岡田 寛子(46) 荒井 基行(46)
- 飯田 隆夫(46) 天野 秀尚(47)
- 榊原 亜樹(48) 松島 則幸(50)
- 岡田 理(51) 内田 一司(52)
- 西雪 弘(53) 鈴木 亮二(53)
- 玉水 友英(54) 早川 和博(55)
- 新美 圭祐(59) 川崎 雅敏(64)

剣道七段 (令和五年八月五日)

(新潟)

- 岡田 和浩(37) 加藤 翔太(40)
- 杉本 真也(45) 大平 直樹(50)
- 永田 徹(56) 高田 貴史(61)

剣道六段 (令和五年八月六日)

(新潟)

- 渡邊 英和(63) 内山 晃子(63)
- 土屋 高美(65) 浅倉 靖雄(68)
- 田中 義文(69) 飯嶋 了三(73)

剣道七段 (令和五年八月二十六日)

(福岡)

- 佐藤 智彦(62)

剣道六段 (令和五年八月二十七日)

(福岡)

- 谷 亮太(31) 中村 太亮(32)
- 林 秀高(46)

居合道五段 (令和五年九月二十四日)

(露橋)

- 加藤 幹大(24) 福田 朱里(24)
- 岩間 友梨(32) 高澤 佑樹(32)
- 島田 和彦(49) 市川 朋美(56)
- 荒木美恵子(58) 平野光磨呂(68)

剣道七段 (令和五年十一月十一日)

(枇杷島)

- 深水 和希(35) 野村 卓也(38)
- 荒川 竜也(39) 増田幸太郎(40)
- 永田 陽平(44) 風岡 和憲(47)
- 尾形 正勝(49) 筒井 幹児(49)
- 鈴木 宏伸(49) 坂崎 泰裕(50)
- 岡島 庫人(51) 桂木 真一(53)
- 大原 康伸(55) 杉山 泰久(57)
- 三浦 祥子(57) 梅田 智弘(58)
- 渡邊 真吾(60) 早川 洋介(65)
- 藤井 愛子(69)

剣道六段 (令和五年十一月十二日)

(枇杷島)

- 和田 魁斗(29) 田村隆太郎(29)
- 加賀 靖規(30) 那木 佑輔(30)
- 金田 匡嗣(33) 星野 竜(35)

大川 真央(36) 村上 健太(36)  
 栗山 猛行(42) 久野 静代(44)  
 鈴木 大輔(44) 細井 憲(45)  
 尾崎 慎悟(46) 弓場 光寿(46)  
 糸川 定伸(47) 河崎 裕介(49)  
 梶山 裕晃(50) 大川 卓也(51)  
 杉山 玲(52) 西谷 周三(53)  
 恒田 泰宏(53) 中根 喜行(53)  
 尾崎 清和(53) 山下 淳(53)  
 光川 浩二(57) 西村 顕広(57)  
 太田 智之(59) 藤原 基治(60)  
 野末 英明(66) 望月 秀登(69)  
 清水 洋(70) 能見 久(74)

伊藤 謙一(59)  
 剣道教士(令和五年十一月十五日)  
 (東京)

山田 敦(59) 中村 仁彦(61)  
 石田 俊夫(61) 小嶋 啓文(61)  
 横山 政志(61) 長谷川善久(62)  
 奥田 浩史(63) 川田 秀幸(65)  
 上田 欣也(66) 木村 吉男(67)  
 高橋 猛敏(67) 小澤 由治(70)  
 松崎 光夫(73) 加藤美代子(74)  
 山本 昌生(76) 大田 政洋(79)  
 夏目 弘善(81) 種村 喬行(82)

剣道錬士(令和五年十一月十五日)  
 (東京)

荒木 敏明(30) 澤田 健佑(32)  
 佐々木富弥(32) 今泉 一紀(32)  
 山崎 一篤(32) 服部 篤紀(33)  
 田中 辰昌(33) 笠原 涼平(33)  
 門井 良平(38) 河合謙二郎(39)  
 古島 尚典(41) 齋藤 友寿(44)  
 加藤 泉(44) 近藤 陽子(46)  
 小倉 和明(48) 島田 裕(48)  
 高井 英行(48) 喜多 寿栄(49)  
 宮下 知典(49) 安藤 努(50)  
 榊原 貴幸(50) 貝塚 緑(50)  
 安藤 伸也(50) 磯部 清隆(51)  
 大参 智美(51) 池田 典之(53)  
 久米 昌人(56) 颯田 十治(59)  
 伴野 弘光(59) 早崎 正起(67)  
 神谷 一吉(69) 鶴藪はつえ(73)  
 萩原 秋雄(73) 清野 祥一(75)  
 藤田 昭人(80)

居合道教士(令和五年十一月十五日)  
 (東京)

佐藤 邦男(67) 新海 勇(78)

居合道錬士(令和五年十一月十五日)  
 (東京)

大石 英岐(55) 阿部 圭二(60)  
 村林 宜行(67) 三浦 康郎(67)  
 田中 宏一(80)

杖道錬士(令和五年十一月十五日)  
 (東京)

戸谷 高(39)

剣道五段(令和五年十一月二十三日)  
 (刈谷)

倉地 宥貴(23) 安部 柁平(23)  
 鈴木 康太(24) 山田 慎(25)  
 西野目真史(25) 松井 苗(25)  
 河村 聡実(26) 小島 真世(26)  
 長谷川大智(26) 古澤 大介(28)  
 塚本 祐子(28) 木口 慶彦(29)  
 千田多作(30) 石川亮太郎(32)  
 佐野ちなみ(32) 木村 壽里(34)  
 大高 成哉(34) 日比野征也(37)  
 桑山 文吾(38) 尾崎 隆宏(39)  
 藤井 知道(41) 川合 正敏(42)  
 天野 高光(43) 森山 隆宏(43)  
 今井健太郎(43) 中村 崇彦(44)  
 金森 孝泰(46) 木村 英一(46)  
 伊藤 丈弘(46) 押元賢一郎(51)  
 下村 成哉(55) 山腰 雅惠(55)  
 吉田 真(60) 伊藤 由介(61)  
 加藤 誠(66) 田中 敏雄(68)  
 大野 吉教(70) 坂井 千鶴(70)  
 新川 充子(71)

居合道八段(令和五年十二月九日)  
 (東京)

松下 明房(81)  
 居合道七段(令和五年十二月十日)  
 (東京)

酒井 寛文(42) 加藤美智子(63)  
 塚下 晴彦(69)

居合道六段(令和五年十二月十日)  
 (東京)

筒井 康太(34)

居合道五段(令和六年一月二十一日)  
 (天白)

坂本恵美子(29) 宮本 晃吉(37)  
 米山 一記(53) 柴田 邦江(63)  
 鈴木 仁士(71)

剣道六段(令和六年二月四日)  
 (福岡)

島川 孝敏(35)

剣道七段(令和六年二月十七日)  
 (長野)

田中 有理(50)

剣道六段(令和六年二月十八日)  
 (長野)

一柳 雅士(35) 能谷 愛(43)  
 佐藤 真治(52) 加藤 貴康(59)

杖道五段(令和六年二月十八日)  
 (昭和)

佐々 寧昭(45) 爪橋 健(67)

居合道七段(令和六年三月三日)  
 (京都)

近藤 光明(56)

居合道六段(令和六年三月三日)  
 (京都)

中村 誠(56)

## 七十九歳七段合格 八十一歳教士号取得



夏目 弘善  
(東三河)

### 〈略歴〉

昭和三十九年六月愛知県警に採用、昭和四十四年四月愛知県警上級職に登用、平成三年七月検察官副検事に転職、平成十八年四月司法書士（行政書士）事務所を開設、現在に到る。

### 〈剣道を始めた経緯〉

警察官に採用されて初めて竹刀を握るも、同期生百二十七名中中段を取得できなかった者は、私ぐらいの者だった。その理由は、幼少年代、保護者たる親が何度も変わり、しかも、赤貧洗うがごとき環境であったため、義務教育も満足に受けられず、部活などもつてのほかで、家業の手伝いをさせられていたため、所詮運動神経も発達せず「剣道」への適応能力が欠如していました。しかし、私は、三十一歳で警部補に昇任した折に仕えた、署長が、足立力という方で、署長でありながら、毎朝、剣道場で稽古をするという稀に見る、文武両道の人物でした。こうし

た姿に感銘を受け、私も同署長に見習い本格的に竹刀を握るようになり、町道場入門し剣道を学ぶこととなりました。

### 〈その後〉

私は、四十一歳の折剣道五段を取得しました。そして、わたしは、更に昇段しようとしたが、六段に挑戦し、何度も不合格でした。そうした中であって、平成三年五月、私が四十九歳の折、妻が病没したのを機に警察界を去る決心をし、同四年七月検察官副検事に転身しました。そこでの業務は、大変過酷なもので、土日出勤や、深夜に及ぶ業務をこなしておりましたが、仕事上、刑務官とも親しくなり、仕事の合間を見て、刑務所や拘置所に向き、細々と稽古を続けていました。各地検や、名古屋地検各支部で務めを果たした後、平成十七年一月末日検察官を退官し、その後は、毎日、名古屋拘置所に稽古に通いましたが、その甲斐あってか、平成二十二年五月の六段審査に合格しました。この間受審回数は、何と三十回を超えていました。

まさに、下手の横好きで「ここまで来れたか」と感慨もひとしおでした。

### 〈剣道七段に挑戦〉

私は、剣道六段に合格してからは、一週二回程度の稽古回数になってしまいました。あつという間に月日が流れ、平成二十七年頃から稽古回数を週四回に増やしました。そして、平成

二十八年五月から七段に挑戦しました。

その頃は、司法書士として事務所を構える豊橋市で週二回、土日は名古屋の自宅に帰るので、愛知県スポーツ会館で二回稽古に励みましたが、毎年七段審査に挑戦するも不合格でした。ところが令和元年五月中村スポーツセンターでの七段審査では、「今一步のところ合格」との情報をつかみました。

そうこうして、令和二年になるや、スポーツ会館が閉鎖になり、私の名古屋での稽古の拠点がなくなりました。

そこで私は、剣道稽古の拠点を豊橋に絞りました。そして、大学の後輩で、剣道八段審査に挑戦し多数回第一次審査に合格した実績の持ち主の長谷川先生に師事しながらみっちり指導してもらいました。同先生から週3回基本を中心に指導を受けました。「手の内の研え」、「足さばき」、「正眼の構え」等初心に帰って指導してもらいました。また、立ち合いでは、気合いのかけ方、攻め方、捨て身の技を懇切丁寧に何回も何回も教えてもらいました。しかし、物覚えの抜群に悪い私には、同先生も語気を強めて「先輩何度言ったら分かるのですか？」と、毎回叱咤されました。このようにして令和二年同三年と二年間同先生の指導を受けました。その甲斐あって、令和三年十一月十三日の七段審査（挑戦十五回目）には、「攻

めて、溜めての初太刀」の面が決まり、合格することができました。この時我が年齢は七十九歳九か月と十二日でした。

### 〈現在〉

私は、八十二歳になろうとしています。生涯剣道を目指し、七段にふさわしい剣に精進しようと思ひ、隔日稽古に励んでおります。

## 女性剣道七段誕生

七段合格者の紹介

### 父と共に挑む



置田 訓子  
(東三河)

令和五年五月十三日、枇杷島スポーツセンターにて行われた七段審査会において昇段させていただきました。

私は父（故、明）と、兄の背中を追いかけて、六歳から竹刀を握り始めました。父から教わったことは、基本稽古と、どんな時も「中途半端な打ちをしない」ということでした。

父の訓えを胸に、七段への挑戦が始まりました。東三河の地元の先生方からは、丁寧な指導を受けて、「攻め、溜め、引き出し、力強さ」など、多くのことを学びました。そして、少しずつ対話ができる剣道へと変化していったように思います。

審査当日は、体中から酸素が無くなるくらいの気合いを入れ、稽古してきた全てのことが表現できたように思います。

今、七段のスタートラインにたち、身の引き締まる思いです。今まで以上に稽古をし、学び、考えて、精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、審査に向けてご指導してくれた先生方、剣友の皆様、応援してくれた家族、同僚、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

剣道七段合格について



藤井 愛子  
(名古屋)

合格して剣道を始めてからの事を振

り返りました。子供の稽古に付き添い、大人から始めました。三段まで自身の運動能力だけに頼る練習をしていました。

四段審査の時、中々合格出来ません。「何故受からない、どうして」と迷路に入ってしまった。審査当日、たまたま会場に来ていた知人に「何したら良いのかわからない。」と言ったら、「誰もが頑張っているから、その中で目立たないといけない。」それを聞いた時、肩の力が抜け、気持ちが一変しました。

四段合格後は、自分に足りないもの、身に付けなければいけないものを意識して稽古をしました。その度毎にポイントと為る言葉を頂き、審査当日はそれを思い出し、気持ちを落ち着かせ持てる力を出すと挑みました。五段、六段そして七段と合格することが出来ました。

これまで導いて指導して下さった先生、先輩方、一緒に稽古をしてくれた剣友達に感謝しています。まだまだ力不足を感じています。これから体を動かす稽古だけでなく、素直に聞ける心を養う様に精進します。有り難うございました。

自分の長所を知ることの大切さ



加賀 真琴  
(名古屋)

二〇二三年二月十八日、長野県で行われた審査において、七段に合格させていただきました。ご指導いただいた先生方、誠にありがとうございました。

実は、挑戦したその年、私は病気になる仕事を休職していました。治療をつづけていく中で、落ち込んでいく気持ちが嫌で、何か目標を掲げ、強い気持ちを持ちたいと思うようになり、無謀とは思いましたが、思い切って受審を決めました。稽古を再開した時は、蹲踞もまともにできませんでした。思うように身体が動かず、落ち込んだ時期もありました。しかし、出来ないことに目を向けるのではなく、自分の長所は何かということに着眼して、稽古に取り組みようと思えました。少しずつの走り込みから始め、基本を中心とした稽古や追い込みを行う中で、体が元に戻ってくる実感があり、出来ること一つずつ増えていくことに喜びを感じ、気持ちも前向きになりました。本番では緊張はしたものの、とてもいい

マインドで挑むことができました。強い気持ちでしっかり攻めること、打ち切ることを意識しました。審査に向けて取り組む中で、改めて健康に稽古ができることのありがたみを感じました。また、自分の特性を見つめ、それを生かしていくことの大切さに気付きました。

教員二十三年目、これからも生徒と共に成長できるよう、また、七段としてふさわしい剣道ができるよう精進したいと思います。

最後になりましたが、このような機会を頂いたことで、自身を振り返ることができました。また、たくさんの人に支えられていることに改めて気づきました。ありがとうございました。

出会いに感謝



安部花奈  
(尾張)

令和五年五月、第二の故郷「愛知」の審査会にて七段合格することができました。

小学校一年生から剣道を始め、学生時代は香川、福岡、兵庫で稽古に励んで参りました。この頃は七段合格など夢にも思いませんでしたが、愛知に来

一宮女性剣道クラブや尾張女子部、そして県の稽古会に参加する中で七段を意識するようになっていきました。

一宮女性剣道クラブでは、約半年間毎週のように七段の先輩方との立合稽古の機会を頂き、先生方からも貴重なアドバイスを頂きました。そして、ここでのご指導をもとに「攻めて、溜めて、見て、打突する」を常に心がけつつ、礼法、発声、残心などの基本も見直しました。私は近年、コロナ禍も重なり今までと比べて稽古時間こそ少ない状態ではありましたが、この質を意識した稽古によって本番でも平常心を保つことができ、七段合格に結びついたと思います。

最後にこれまでご指導頂きました先生方、稽古して頂きました剣友の皆様、そして家族に感謝致します。今後とも「出合い」を大切に、精進して参ります。そして、子どもたちには剣道の楽しさを伝えつつ、共に成長することができたらと思います。今後ともよろしくお願い致します。



## 感謝の七段



高松 真澄  
(尾張)

令和五年五月に行われました七段審査会にて合格させて頂きました。小学校三年生の時に剣道を始めて以来、学生、社会人、結婚出産して五年間剣道から離れた時期もありましたが、色々な方々に助けて頂き、今まで剣道を続けていくことができました。これまで御指導下さった先生方をはじめ、剣友の皆様、そして支えてくれた家族の陰と心より感謝申し上げます。

一昨年より、県の強化選手に選出頂いたことで稽古環境が一変し、八段の先生方から直接御指導を頂いたり、自分よりレベルの高い選手、既に七段に御昇段されている先輩方との稽古の中で、たくさんのお話を学ぶ機会に恵まれました。ここでの多くの経験が財産となり、七段昇段への道標となったことは言うまでもありません。緊張感のある稽古に身を置くことで、更なる技術の習得はもちろん、精神面での成長もできたと思います。

審査会当日は、適度な緊張感の中でマインドを高めることができました。

相手ではなく自分を見つめ、自分を信じ、いつも通りの剣道をする事だけに意識を向けたことが、良い結果に繋がったと思います。

稽古ができることに感謝し、七段に相応しい剣道ができるよう常に学び続ける姿勢を忘れず精進していきたいと思いますので、変わることなく御指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 気づきと出合いの中で



三浦 祥子  
(名古屋)

令和五年十一月十一日名古屋市枇杷島スポーツセンターでの剣道審査会で、七段に昇段させて頂きました。私の剣道への取り組みに、理解・協力してくれている家族、厳しく熱心にかつ親身にご指導くださった諸先生方、何度も立合稽古をしていただいた先輩方並びに剣友に感謝申し上げます。

六段合格後間もなく両目の手術と両足の手術をしたため、稽古が出来なくなり、不安な日々が続きました。道場での子供たちの指導から少しずつ再開し、改めて自分の剣道を見直す機会を与えられました。その上で今出来ることを考え、(一)量よりも質(二)攻防一致(三)

## 剣道七段合格について

正しい呼吸法を身に付ける、この三点を常に意識して稽古に臨みました。更には、居合道に出会い、品位のある所作・立ち居振舞い、厳格な演武、特に竹刀操作に於ける刃筋の重要性を確認することが出来ました。こうした気づきと出合いが剣道の稽古に生かされたのではと思います。これからも一層精進し、剣居一体を目標に修行をして参りますので、変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。



日比野 恵津子  
(尾南)

令和五年五月、枇杷島スポーツセンターでの七段審査会で昇段させて頂きました。ご指導をいただいた皆様に深くお礼を申し上げます。

私が剣道を精進する環境は、誰よりも恵まれていると自負しております。剣道があり今の私があるの思いから、二人の娘が剣道を始めると同時に十年ぶりに地元の剣道教室で再開しました。仕事と子育ての「生活の中での剣道」を応援していただき、常に何を

一番大切にしないではいけないのかをご指導いただきました。家族が館長を務める剣道道場では、日頃の稽古から更に努力し、共に取り組むことで得られる「絆」と子どもとのご家族や卒業生など「ご縁」をつなぐことの大切さを学びました。また、「自主性」が結果と目標達成になる学生剣道では、剣道だけでなく「人としての教え」が最優先された指導であり、それを意識することで生活が変わり、実力が発揮できることを学生と共に実感しながら稽古に励みました。これらの私の剣道環境での日頃の稽古が、無心の立会いになれたのではないかと思います。そして何よりも仕事と剣道をする私を一番に理解し、認めてくれた家族の支えと励みがあったので七段昇段であることを忘れずにこれからも精進していきたいです。

剣道を続けられることに感謝



小林 尚美  
(東三河)

やっと、八回目の審査で令和五年五月十三日、枇杷島スポーツセンターにて七段に昇段させていただきました。

私の場合、合格と言っても七段の扉を開けさせてもらえただけという状況です。これから入室させていただきます、精進して行きたいと思っています。

今回の審査は午後最初の組Bという事で、呼び出しがあつて直ぐ面着け。余計な事を考える間もなく立ち合いになりました。特に一人目。充実した気合、姿勢に気をつけ、攻める強い気合で相手をよく見る事ができました。他会場の打突が聞こえ始めましたが、打ち急がず溜めができたのか？気がついた時には出小手が打てました。その後は慌てる事なく集中して立ち合いができた様に思います。

思い返せば、六段受審中たまたま受けた脳ドックで脳動脈瘤が見つかりました。破裂すれば六十%死に至ると医師に言われました。「もう剣道ができなくなるのかな？」と不安になりました。幸い未破裂なので開頭クリッピング術とコイル塞栓術を行います。現在も剣道を続ける事ができています。

剣道教室の子ども達に指導しながら、剣友会や女子部の仲間達と稽古できる喜びが大きく感謝でいっぱいです。主に指導して下さる先生(後輩)は、私を見放さず根気がいったと思います。本当に指導して下さる先生方や周りの人達のおかげで昇段できました。ありがとうございます。感謝！

剣道・居合道・杖道

令和元年10月1日改定

段・級	審査料(円)	登録料(円)
8 ~ 2 級	1,100	2,200
1 級	1,100	3,300
初 段	2,200	5,500
二 段	3,300	7,700
三 段	4,400	9,900
四 段	5,500	12,100
五 段	6,600	18,700
六 段	13,200	44,000
七 段	15,400	66,000
八 段	19,800	99,000
称号		
錬 士	19,800	55,000
教 士	27,500	77,000
範 士		105,000

※審査日前日までに、七〇歳になった方は登録料半額。  
※四級以上の受審に際し、入会金(終身) ※五、〇〇〇円を納入して愛知県剣道連盟に加入しなければならない。

※令和六年七月より八、〇〇〇円に改定



<http://www.aichi-kendo.jp/>

全剣連のホームページは、当連盟のリンクページ、関連団体タブよりご確認いただけます。

また岐阜剣連、三重剣連、静岡剣連ホームページへのリンクもしております。

当連盟ホームページへのアクセスは『愛知県剣道連盟』で検索していただくか、上記アドレスを直接入力して下さい。

何卒ご了承下さい。

なお、全日本剣道連盟主催の大会結果や、審査会（六、七、八段、称号審査会）の合格者につきましては、全剣連ホームページに掲載後、当連盟ホームページに掲載いたします。

審査結果  
審査について  
親の眼  
関連団体  
個人情報保護方針

大会結果、審査結果等は出来るだけ早い段階で掲載するよう務めておりますが、多少のお時間を要する場合がございますので

杖道のタブよりご確認下さい。

## 愛知県剣道連盟ホームページ案内

現在、各大会及び審査会の要項は、約二ヶ月前には当連盟ホームページに掲載しております。

また大会申込書以外にも、審査会申込書、加盟（入会）手続書がダウンロード出来るようになります。

したので、必要な方は各種要項のページにあります剣道、居合道、杖道のタブよりご確認下さい。

## 五地区剣道連盟所在地

尾張剣道連盟	理事長 中川 治彦	事務局長 安田 徹夫
〒491-0903	一宮市八幡 4-1-28 一宮武道館内	TEL 0586-43-1023 FAX 同じ
名古屋市剣道連盟	理事長 尾野 博之	事務局長 白石 裕章
〒454-0022	名古屋市中川区露橋 1-31-20 富士美ビル 2-G	TEL 052-361-8073 FAX 同じ
西三河剣道連盟	理事長 大田 義弘	事務局長 手嶋 道雄
〒471-0813	豊田市野見山町 3-78-14 手嶋様方	TEL 0565-89-3274 FAX 同じ
東三河剣道連盟	理事長 畠山 隆吉	事務局長 夏井 善久
〒441-0211	豊川市御津町河原畑 117 夏井様方	TEL 080-4535-2467 FAX 0533-88-6509
尾南地区剣道連盟	理事長 丹羽 正則	事務局長 高橋 猛敏
〒478-0024	知多市南粕谷 1-20-278 高橋様方	TEL 0569-42-0649 FAX 同じ

## 中日新聞社

成績の持参またはファックス先は以下の通りです。

◇本社 (名古屋市中区3の丸1ノ6ノ1)  
FAX 052(201)4331  
問い合わせは 電話 052(221)0793

◇豊橋支局 (豊橋市八町通3ノ91)  
FAX 0532(54)4655

◇岡崎支局 (岡崎市東明大寺町16ノ18)  
FAX 0564(25)1554

◇豊田支局 (豊田市美山町3ノ34ノ34)  
FAX 0565(25)1118

◇一宮支局 (一宮市大江1ノ13ノ13)  
FAX 0586(72)5035

◇半田支局 (半田市出口町1ノ45ノ18)  
FAX 0569(23)2372

◇春日井支局 (春日井市鳥居松町3ノ60)  
FAX 0568(81)2797

## 読売新聞社

FAX 052(211)1085

取材に来てくれることもありますので、  
先ず一報を

## 編集後記



「歴史探訪」の取材を通して「棒の手」が愛知県の誇る文化遺産であり、剣道とも深い関わりがあることを知りました。会員の皆様も機会があれば、ぜひ「棒の手」をご覧ください。  
(広報委員 安田徹夫)

「歴史探訪」の取材を通して「棒の手」が愛知県の誇る文化遺産であり、剣道とも深い関わりがあることを知りました。会員の皆様も機会があれば、ぜひ「棒の手」をご覧ください。  
(広報委員 安田徹夫)

「歴史探訪」の取材を通して「棒の手」が愛知県の誇る文化遺産であり、剣道とも深い関わりがあることを知りました。会員の皆様も機会があれば、ぜひ「棒の手」をご覧ください。  
(広報委員 安田徹夫)

## 訃報

新美 邦廣先生 (享年七十五歳)  
令和六年四月十八日ご逝去  
剣道教士七段 県連盟参与

### 広報・資料委員

(前列左から)

榎本鐘司、穂園元孝、手嶋道雄

(後列左から)

安田徹夫、事務局長 伊藤国博

令和五年六月から当連盟も新体制になり、今号から広報・資料委員長として「観の眼」の作成に携わらせていただきました。

第四十八号の作成において会員の皆様方には多大なるご支援、ご協力を賜りまして深く感謝しております。

なにぶん不慣れなため、多々不手際があるかと思いますが、会員皆様方のご意見、ご指摘を真摯に受け止め、更に深く親しまれる内容にと心がけてまいります。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。  
(広報委員長 穂園元孝)

戦後のスポーツ剣道・撓競技大会の賞品は、開催地域スポンサーから提供された食料品や特産物資(例えば綿布や毛織物などの生活用品)だったという。当時の苦労がしのばれる。  
(広報委員 榎本鐘司)







令和6年度事業計画

一般財団法人 愛知県剣道連盟

12月			1月			2月			3月		
全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間	全剣連・県剣連・地区剣連その他行事	場 所	時 間
1日 ●居合道八段審査会 △県スポーツ少年団剣道交流大会	東京都江戸川区 北	9:30	1水			1土	●剣道七段審査会 ▲東海地区剣道合同稽古会	稲垣市 霧橋	15:00		
2月 ▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00	2水			2日	●剣道六段審査会 ※第67回中部日本剣道大会	稲垣市 西龍中学校体育館	9:00		
3火			3金			3月	▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00		
4水			4土			4火			4火		
5木			5日			5水			5水		
6金			6月			6木			6木		
7土		14:00	7火			7金			7金		
▲県剣道稽古始め(剣・居・杖) ※第32回東海学連剣道大会	東 霧橋		8水			8土	▲県剣道七・六段審査会	枇杷島	19:00		
8日 ○第39回全日本学生居合道大会			9木			9日					
9月			10火			10月					
10火			11水			11火	●剣道七・六段審査会	沖繩県			
11水			12木			12水					
12木			13金			13木					
13金			14火			14金					
14土			15水			15土	●剣道七段審査会 ▲居合道高段位空手道講習会	山梨県 山梨	10:00		
●骨太東海ブロッグ講習会(14・15日)	大垣市武田館		16木			16日	●剣道六段審査会 ▲剣道講習及び審査会(級～五段)	山梨県 山梨	10:00		
15日 ▲第3期愛知県剣道指導者講習会	愛知県武田館		17金			17月	▲剣道合同稽古会	枇杷島	19:00		
16月			18土			18火					
17火			19水			19水					
18水			20木			20木					
19木			21金			21金					
20金			22土			22土	▲居合道高段位空手道講習会	枇杷島	10:00		
21土			23日			23日					
22日			24金			24金	●剣道八・七・六段審査会	東京都江戸川区			
23月			25土			25土	●剣道中央・地区講習会(25・26日) ▲居合道・林道合同稽古会	東京都江戸川区 霧橋剣道場 柔道場	13:00		
24火			26水			26水	▲居合道・林道合同稽古会	枇杷島	19:00		
25水			27木			27木	▲居合道・林道合同稽古会	枇杷島	19:00		
26木			28火			28火					
27金			29水			29水					
28土			30木			30木					
29日			31火			31火					

備考 ●全剣連 ○全剣連四与 ▲県連 △県連四与 ※その他 \*日程、会場の変更もありますので、必ず開催要項を確認下さい。  
 各地区自主練習開催日 名古屋…毎月第2月曜日・第4月曜日(19:00) 霧橋 尾南…毎月第1火曜日(19:00) 東海市体育館  
 西三河…毎月第1日曜日(19:00) 東三河…毎月第4土曜日(14:00) 豊橋市武道館 ※5、8、12、1月を除く

## 【資料室所蔵史料紹介】

● 昭和二十五年五月十四日開催

「第一回全三河剣道大会」プログラム紙

● 昭和二十六年一月十四日開催

「東海四県撓競技大会」プログラム紙

敗戦後、昭和二十二年四月十日付で学校施設や公共施設では厳しく禁止措置が執られた剣道であったが、民間では「スポーツ剣道」・「剣道競技」・「ジャパニーズフェンシング」（愛知県）などとして、根強く行われていた。そして警察剣道も、術科ということもあってGHQの禁止措置の網からは外れていた。それが昭和二十四年五月二十一日に急遽の廃止措置がとられた。（この経緯は『警視庁術科110年史』26頁に詳しい。）もはや、民間施設しか剣道のできる場はなかったのであるが、学生剣道出身の実業団の愛好者、交通手段を握っている国鉄や私鉄の剣道愛好家の活動は、警察剣道廃止措置に反動するかのよう<sup>1</sup>に活発化した。

昭和二十四年十月三十日には東京の原宿会館で「第一回全国剣道競技選手権大会」（委員長 笹森順造先生）が開催された。この大会プログラム（尚武堂史料）には、愛知県から団体戦に「名鉄クラブ」と「名古屋鉄道局」のチーム名、個人戦の三十歳代の部には野々村策一先生、二十歳代の部には名鉄クラブと名古屋鉄道局の数名の選手の名が見られる。この日には、大会終了後に、全

国から集まった剣道愛好者らと「新剣道研究会」と称して協議会も行われ、各地クラブの連合組織を設ける事を可決し、「東京剣道連合会」を立上げ第五回国民体育大会の競技種目としての採用を目指して「剣道競技」の競技規則の整備を早急に行うこととした。そして昭和二十五年二月五日に、〈全日本剣道競技連盟〉の名称でスポーツ競技としての剣道の全国的組織を発足させた。会長は笹森先生、副会長の一人に愛知県の土川元夫先生が加わった。

全国組織の発足につれて昭和二十五年度には愛知県内各地域で「剣道競技」大会が盛んに行われた。

さて、ここにまず紹介するのは、昭和二十五年五月十四日に岡崎で開催された「第一回全三河剣道大会」プログラム紙である。注目していただきたいのは、「大会要旨」である。ここには次のようにある。

「国技剣道は心身共に健全なスポーツとして本来の姿に帰りまして新発足をしてGHQよりも認められました。去る二月全国剣道聯盟の結成を見まして名古屋、一宮、西尾各地に於て既に近県剣道大会が挙行されました。今秋愛知県にて行われる国民体育大会にも参加する事となり、本大会はその前提として全三河剣道愛好家に呼びかける戦後初めての大会であります。」

この「大会趣旨」の文面は、「剣道競技」の全国組織の設立が、愛知県では次のように拡大解釈されてしまったことを示しているだろう。……三尺六寸竹刀での一本勝負という戦時剣道の特徴を払拭して、礼法における蹲踞の取り止め、掛け声の禁止（打突部位呼称は一回のみ可）などの変更を加えた「剣道競技」がG

HQにスポーツ競技として認められた。だから二月に〈全日本剣道競技連盟〉が結成された。愛知県ではそれを先取りしてジャパニーズフェンシング協会がスポーツ剣道を振興し、民間施設での本大会はこのようなスポーツ剣道振興の一助とするものであると……けれども、それは誤った認識であった。「剣道競技」はGHQには認められず、新たに「撓競技」の創成となったのである。

〈全日本剣道競技連盟〉技術委員会は、GHQの指示のもと、笹森先生を中心として、袋撓と新式防具を用いて制限時間ポイント制の「撓競技」を創成し、昭和二十五年六月二十四・二十五日の静岡県伊東市伊東鉄道集会所での第一回全日本撓競技連盟評議員会において、〈全日本剣道競技連盟〉の名称を破棄し、同年二月五日に〈全日本撓競技連盟〉が発足したとする変更手続きを完了し、あわせて撓競技の講習会を実施した。同時に、「一九五〇・六全日本撓競技連盟制定競技規約」が施行された。そして、同年十月二十九日、第一回の全日本撓競技大会が名古屋市の名古屋鉄道株式会社講堂で開催された。(このプログラム紙については前年発行の『観の眼』第四十七号で紹介した。)

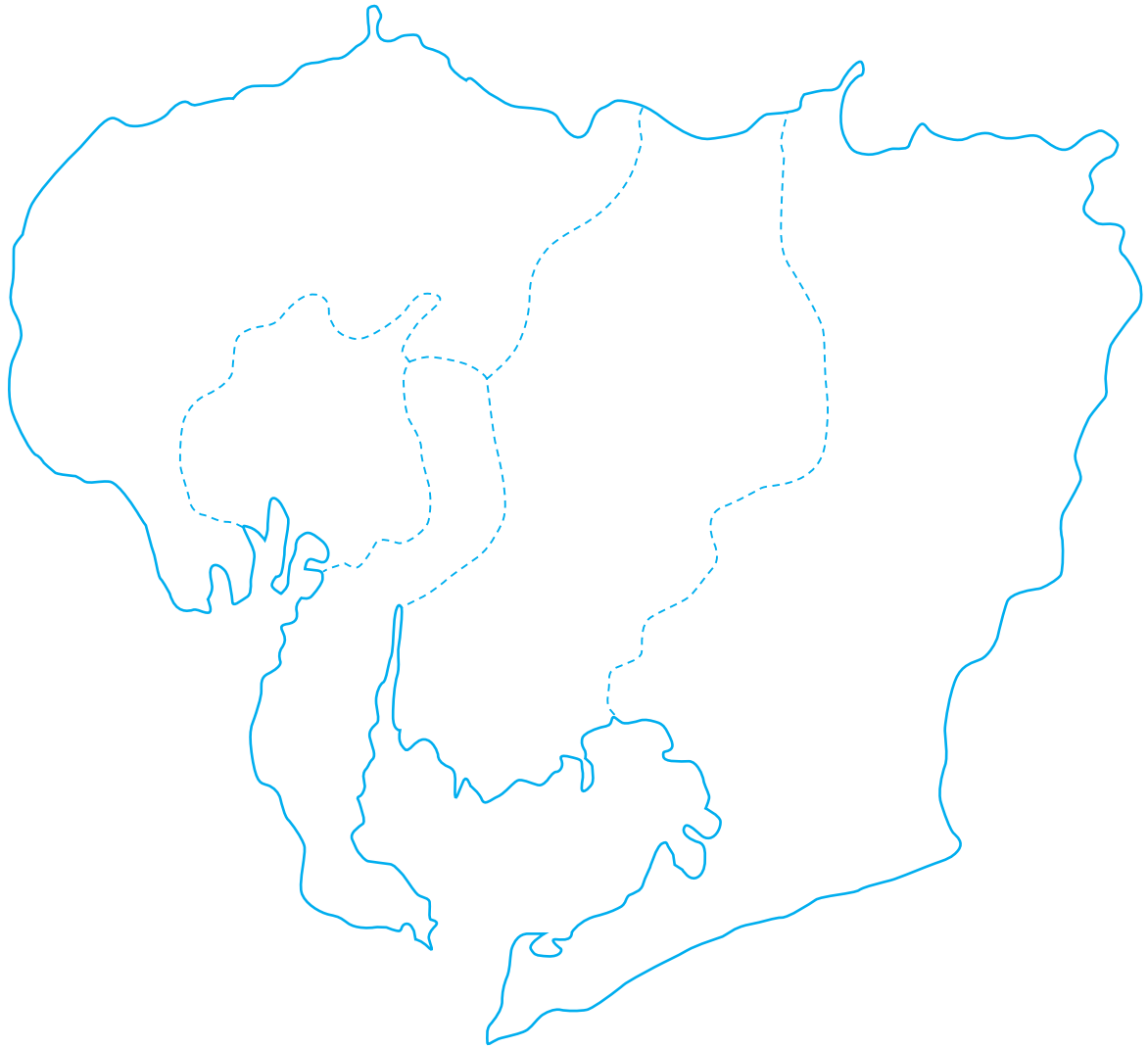
次に紹介するのは、昭和二十六年一月十四日開催「東海四県撓競技大会」プログラム紙である。主催は「愛知県蒲郡剣友会」であり、県内の地域団体が開催したものととして、初めて「撓競技」を冠した大会のプログラム紙である。このプログラム紙で注目したいのは、試合の結果が付記されており、それからみるとこの大

会は名古屋、西尾、蒲郡の三地域の対抗戦であったというのが実態であった。そして小学六年生の部として西尾三チームと蒲郡二チームの五チームの参加があったことが分かる。言い換えれば、愛知県で「撓競技」にいち早く取り組んだのは、名古屋は当然としても、その他には西尾や蒲郡といった地域であったことが指摘されるのである。

最後に、今回紹介した二つのプログラム紙に選手として名前のある、榊原正先生(大正九年生れ)の活躍のことに触れておかなければならない。両方ともに西尾芳友会(西尾市剣道連盟の前身)の選手としての出場である。昭和二十四年十月の第一回ジャパニーズフェンシング大会では名古屋市チームの選手、翌年一月の第二回ジャパニーズフェンシング大会では「東邦出身チーム」の大将として出場していることが、資料室所蔵資料から分かるが、西三河と東三河の境に位置する吉良町出身の先生は、戦前は東邦商業の選手として活躍、戦後は東三河の蒲郡、西三河の西尾・平坂の稽古会で鍛錬をかさね、東邦商OBとして名古屋市の先生方に教えを受け、名刑にも迎えられた。その後の先生の活躍(第七回国体撓競技団体戦中堅メンバーとして全国優勝、第一回全日本剣道選手権大会優勝など)は、戦後の名古屋、蒲郡、西尾などのジャパニーズフェンシング協会(剣友会)の逸早い組織化、稽古会・大会の開催、愛知県剣道競技連合(↓愛知県撓競技連盟)の中央組織との逸早い連帯など、愛知県の剣道愛好者の熱意・総合力を礎としたものであった、とここに特筆することは許されよう。







広報「観の眼」第四十八号

令和六年六月二十八日発行

一般財団法人 **愛知県剣道連盟**

〒453-0035

名古屋市中村区千王町十一番

二十一号

電話 〇五二〇四八一〇〇九三

FAX 〇五二〇四八一〇〇九五

題字・故竹田弘太郎名誉会長